資　料　２

第２回専門部会（子ども・福祉）

第２回専門部会（子ども・福祉）議題

１　第２回審議会に向けた流れ

２　第１回会議の振り返り等

（１）第１回会議の追加意見について

（２）第１回会議の振り返り

（３）追加データ

①転出理由

②人口関連

③「おおたの未来づくり」

３　アンケート結果等の区民意見の報告（速報）

４　分野別の目指すべき姿の取りまとめ

２　第１回会議の振り返り等

（１）　第１回会議の追加意見について

（１）第１回会議の追加意見について

●澁谷委員　追加意見

子育て



- 子ども・子育て支援に関しては「みらい事業」の着実な推進が先ずは必要。
- 区児相が孤立しないためには、足腰のしっかりした保健や福祉に関する困りごとや気づきを受け止めるプラットフォームを地域単位で整備することが不可欠。
- 「言ったことに耳を傾けてくれる」という子どもたちからの評価が今以上に多くなるよう、子ども主体の場・空間を増やしていくことも重要（居場所の整備では必須のポリシー）。

福祉



- 地域包括支援センターや障害児相談支援事業所等の社会福祉資源の計画的整備、社会福祉協議会の取り組みにより地道に地域づくりが着実に進められてきたこと（地域福祉コーディネーターの配置等）は、安全・安心なまちづくりにとって重要なステップ。

（１）第１回会議の追加意見について

●岡元委員　追加意見

全般

- こども、現役世代、高齢者ともに、暮らして良かった、ずっと暮らし続けていきたいと感じる区民満足度の向上が大事。
- 大田区にとって一番大切なのは区民。区民が幸せと感じるための施策、区民を活かすための施策が優先されなければ大田区の発展はない。
- 区民の尊厳を守り抜くためのベーシックサービスがどれだけ実現できるか、老後も金銭的な心配なく受けられる医療・介護環境、若者・現役世代が将来に希望が持てる大田区へ、もっと区民の意見が反映される仕組みを作っていきたい。

子育て・教育



- 2040年ごろ、17年後には現在未就学児までが社会人となる。
- 納税義務を果たせる社会人に育てるための保育環境や学習環境の整備は最大の投資。
- しかし、保育や学校現場では家庭環境に起因した問題も多発し、教員が疲弊している。ネグレクト状態で十分な栄養が摂れていない、発達障害で服薬中などの児童への対応が追い付いていない。SC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）、補助員などの教育委員会による人員配置だけでなく、PTAや町会自治会など地域全体で課題を共有し、早急に解決に結びつけなければならない。

（１）第１回会議の追加意見について

●岡元委員　追加意見



高齢者

●衣食住の中でも住宅については現役世代にとっても家賃負担が大きい。高齢者が借りられる賃貸物件が極端に少なく、アパートが見つからずにやむを得ず地方の施設に入所している。住み慣れた大田区でもっと自由に暮らせる体力も気力もあるのに、住宅が確保できないために、不本意な晩年を送らざるを得ない現状がある。空き家活用を含み、高齢者のシェアハウスなど、区が責任を持って住宅の確保に取り組まなければならない。

（１）第１回会議の追加意見について

●庄嶋委員　追加意見

全般

- 海、川、台地部、多様な公園（キャンプ場も）などの「環境（自然）」、町工場、商店街、銭湯、羽田空港、先端技術などの「経済（産業）」、寺社などのお祭り、歴史・文化的な資源、多様な地域活動などの「社会（コミュニティ）」というように、SDGsの3側面が揃っている。区民アンケートでは、大人も子どもも「交通の利便性がよいまち」が多い。都会の利便性と自然、コミュニティの両立（鼎立）が大田区の強みといえる。
- 一方で、緑の減少や災害の激甚化、工場や商店の減少、地域の担い手の高齢化といった傾向は、SDGsの3側面を持続可能なものにできるかが問われる課題である。
- 子どもにせよ、福祉にせよ、地域に課題があるとき、行政が過度に調整するのでなく、住民同士の自治で乗り切ることが大事。行政の過度な調整が様々な取り組みの妨げになってはいけない。

人口



- 23区の中でも0～4歳の転出超過数が最も多いという現象については、それが長期的な傾向を示すものか、令和3、4年に起きた一時的なものかを見極めることも含め、なぜ起きているかの理由について、エビデンスが必要である。

（１）第１回会議の追加意見について

●庄嶋委員　追加意見

子育て・教育



- 子どもに関わる活動、子どもを通じたコミュニティには、PTA、おやじの会、各種学校ボランティア、学校支援地域本部（地域学校協働本部）、少年スポーツチーム、青少年対策地区委員会などのほか、こども食堂、学習支援、読み聞かせ、プレーパーク活動などNPO・区民活動団体による活動があるのも強み。
- 大田区のもつSDGsの3側面の強み、地域資源を生かした子どもの体験や学びが充実している状態が将来像。その意味で、「製品の開発」「地域の創生」「ICT活用・プログラミング制御」を組み合わせた、大田区版STEAM教育の独自教科「おおたの未来づくり」の方向性はよいと考える。ICTと実体験を結びつけて、生きる力をつける学びを行う。
- 一方で、ボール遊びや花火ができる場所、冒険遊びができる場所（プレーパーク）など、子どもが成長するうえで様々な体験ができる場所を、大田区の地域資源を生かしてつくっていきたい。
- また、羽田空港を擁する大田区であり、外国人や外国にルーツをもつ子どもや区民も増えていくなか、多文化共生に基づく体験や学びも行う。

（１）第１回会議の追加意見について

●庄嶋委員　追加意見

子育て・教育



- 子どもの権利保障を意識した地域社会、行政とする。
- 区施設の複合化により空間的に余裕のない施設となる傾向があるが、子どもが集まったり、自習したりできる空間を保障する。
- 不登校を特別視せず、不登校特例校の取組みなどとともに、様々な主体と連携・協働して、学校以外での学びを保障する。
- 障害がある子どものインクルーシブな遊びと学びの選択を保障する。
- 子どもの意見表明を保障する。児童相談所の機能をもつ大田区子ども家庭総合支援センターもできるが、社会的養護が必要となる子どもをはじめ、あらゆる子どもの声を聴き、代弁する子どもアドボカシー※を保障する。また、区政や学校運営など、自分が所属する集団に対する子どもの意見表明の機会も設ける。（※アドボカシー：擁護・代弁）
- 子育てを行う親（現時点で、母親に偏っていることが多いとすれば、母親）を支える必要があるとの、親子支援を行っている区民活動団体からの声がある。
- 乳幼児期の母親支援のメニューは増えてきたが、就学後のサポートが少ないとの母親からの声もある。
- 子育てや介護、仕事や地域活動における性別・性差による偏りをなくしていく方向性の一方で、家庭内で負担が偏った場合、また、DVなどで弱者になりやすい女性の相談やシェルターを充実させる。

（１）第１回会議の追加意見について

●庄嶋委員　追加意見

子育て・教育



- 家族単位が小さくなっていく中（大家族⇒核家族⇒ひとり親・未婚）、多くの第三者の大人が地域で子どもを応援する大田区が将来像。家族だからこそ難しい問題があり、それを、行政のしくみや地域の活動が支えている状態をつくる。
- 町会会館、商店街のレンタルスペースなど、公共施設以外にも地域の拠点となる場所を把握し、地域での子どもの居場所づくり、中高生の活動の場づくりに活用する。
- コミュニティ・スクールを通じて、学校資源と地域人材を生かす。こども食堂や学習支援での学校施設の活用、学校図書館の活用など。
- 一人一台タブレット端末を活用したGIGAスクールの時代に入り、ICTを活用した学びで、個々の子どもに応じた理解や表現などをサポートする。
- 学校図書館、地域図書館、地域のブックスタジオなどにより、子どもたちの読書活動を支える。読書とICTリテラシーとの相乗効果により、子どもの学びに向かう力を高める。
- 子どもの教育、保育に関わる人材を、区独自の判断で確保し、大切にする。学校や保育園によって教育、保育の質に大きな差が生じることのないようにする。

（１）第１回会議の追加意見について

●庄嶋委員　追加意見

高齢者・福祉



- 65歳以上人口に占める要介護・要支援の割合が、他区より低いとのデータが示されている。栄養、運動、社会参加が健康づくりには重要とされるが、大田区ではポールウォークの活動が広がっているなど、仲間との健康づくりが盛んな影響もあるのかエビデンスを得たい。
- 町会会館、商店街のレンタルスペースなど、公共施設以外にも地域の拠点となる場所を把握し、子どもの居場所づくりと同様、高齢者の交流の場も増やしていく。高齢者が外に出たくなる、歩きたくなるまちづくり、交通の確保を行う。
- 8050問題、ヤングケアラーなど、誰一人取り残さないために、包括的支援（家族まるごと支援）を行う重層的支援体制で生きづらさを支える必要があるが、支える側の人材、地域資源をどう確保していくかが大きな課題。
- 高齢者や障害者の災害時の個別避難の支援も求められるが、支える人材が課題。
- 区、社会福祉協議会、専門機関（JOBOTA、SAPOTA、フラットおおたなど）、福祉事業者、民生委員、地域活動団体・区民活動団体、企業などの連携・協働をいかに持続可能な形で行えるかが課題。
- 地域に関心をもつ人が地域参加しやすい工夫に、地域団体も行政も取り組む。ボランティアだけでなく、地域活動を仕事として担う主体を増やす。

（１）第１回会議の追加意見について

●庄嶋委員　追加意見

高齢者・福祉



- 団塊ジュニアが、2040年ごろには高齢者になっていることを見据えて、現在、PTAやおやじの会、少年スポーツチームなどでできている、保護者コミュニティを核に、将来の地域社会イメージを共有し、構築していく。
- 一方、未婚の人、子どもをもたない人たちが、孤立しない地域社会とする必要がある。
- 地域コミュニティが持続可能なものとなるよう、子どもや若い世代、現役世代を含め、各世代が地域で活躍できるような地域団体の運営を学び、実践する。
- 高齢単身世帯の増加、知的・精神障害者の手帳保持者の増加を示すデータなどは、福祉現場でも実感するところとの声がある。
- 生産年齢人口が減っている以上、高齢者や障害者の就労はこれからの大きなテーマになる。これまでの効率化、合理化、生産性の向上の観点とはまた違う、働き方と場所が求められる。ソーシャルファーム、協同労働など、多様な働き方ができる環境を大田区として後押ししていく。
- 増えていく空き家などを活用して、住まいは人権の観点から、高齢者、障害者、ひとり親など、住宅確保要配慮者を対象とした住宅のセーフティネットをより一層進める。

（１）第１回会議の追加意見について

●庄嶋委員　追加意見

高齢者・福祉



- 認知症になっても暮らせる、障害があっても暮らせる地域社会となるよう、インクルーシブな交流の機会を増やす。
- 犯罪や非行をおかす背景には、家庭内での虐待、障害への周囲の無理解といったことが起因となった生きづらさがある。自分を理解してくれる人がいるという信頼感、安心感により、立ち直り（更生）を支える地域社会にする。
- 大田区がSDGs未来都市としても目指す、イノベーション、新産業、先端技術と匠の技の融合で、社会課題、地域課題を解決していく。障害者への合理的配慮について、UDトーク（音声を文字に変えるシステム）で聴覚障害者のコミュニケーション改善に取り組む、町工場が介護事業者のニーズに合った車椅子を開発するなどの区内事例もあるが、そのイメージ。

２　第１回会議の振り返り等

（２）第１回会議の振り返り

（２）第１回会議の振り返り

分野

子育て



進むべき方向性や重要となる施策等に関する意見

- 最近の子どもは夢や希望を持っていないというのが一般的だという報道もあるので、「大田区だったら子どもたちがこれを夢として持てる」というものを形にできたらよい。
- 子育てしやすいまちにするために、これまでの成果についてアンケートを実施し、今後の方針を明確にする必要があるのではないか。
- 子ども分野について、色々な取組をしているにもかかわらず子育て世帯の人口移動が起こっていることは重要な課題である。
- 子ども食堂のような、行政や公的な施設だけではカバーできない点を補ってくれる団体をバックアップしNPOとして育てていく、こういったことを向こう20年でできるかが非常に重要だと考えている。
- 待機児童はゼロだが、保育士が十分に集まらず、外遊びをさせられない保育園もある。
- 海や川など多様な地形や自然の魅力とそれに携わる地域力が同時にあることで、子どもたちの体験や学びにつながっている。
- 大田区は交通の便の良い都会でありながら、自然の魅力やコミュニティもある。よそから移ってきた子育て世代の方に話を聞くと、そういった点に魅力を感じているので、この点は更に伸ばしていくべき。
- 子ども分野では、質が大事になってくる。子ども自身または子育てをしている当事者がどう感じているかということにより耳を傾ける必要がある。

（２）第１回会議の振り返り

分野

教育

進むべき方向性や重要となる施策等に関する意見

- 子どもたちが夢を持てないという意見もあったが、令和７年度から「おおたの未来づくり」で子どもたちが地域のことを学び始めるため、区内で夢を見つけてくれることに期待したい。
- コミュニティスクール制度など、学校が地域の団体と一緒に子育てしようという仕組みが始まることを契機として、地域が学校や子どもの方を向いて、子育てできるような仕組みを作ることができればよいのではないか。
- 学校は学校、地域は地域という時代ではなくなってきているので、学校と地域が一緒になって何かできないかということを考えることも重要。
- 児童の自己肯定感について、80.3%が「自分にはよいところがある」と回答する一方で、残りの２割は著しく低いと感じる。その結果、非常に荒れている学校もある。原因として、発達障害の子どもがクラスに複数いることが考えられるが、その対応にマンパワーが足りないという深刻な現実がある。学校の先生だけでは中々対応できない部分もあるので、そういった点に大田区の地域力が発揮できたらよいと思っている。
- 各学校や地域の魅力に着目しながら、またその地域の人材をコミュニティスクールが束ねながらやっていくことで色々な可能性があると思う。
- これからの国際化に向けて、大田区に羽田空港があるという特徴を生かし、英語教育に力を入れるのが良いのではないか。2040年頃には「大田区は英語教育がすごく進んでいる。」「大田区で学んだ子どもたちは結構英語が話せる。」という状態を目指してもよいのではないか。

（２）第１回会議の振り返り

分野

高齢者



進むべき方向性や重要となる施策等に関する意見

- 最近の子ども食堂は、高齢者や引きこもりの方もいらっしゃり、多世代の交流の場になっている。多世代交流と地域のネットワークのようなものを大田区で作れるのではないかと期待している。
- 子ども施策をしっかりやり、子どもの数・優秀な若者の数を増やすことにより、しっかり納税をしていただけるような社会をつくることが、一番の高齢者施策である。
- 65歳以上人口に占める要支援・要介護の割合が他自治体と比べて低いことは喜ばしい。理由の分析があるなら知りたいが、高齢者が自主的に交流し、健康づくりの取組を行っていることも要因であると推測されるので、地域力やコミュニティの力は重要だといえる。
- 地域活動の担い手の不足や高齢化が課題ではあるが、高齢者の自主的な取組が健康に繋がっているのであれば、それを伸ばしていくのが良い。
- それぞれの高齢者は健康に関する意識を持ち、自分で健康を保つという自己努力をすることが重要。
- 自宅で介護サービスを利用したいとの希望が多いため、介護人材の確保に力を入れる必要がある。
- 60歳でリタイアではなく、もう一度学び直して、社会に戻ってくることを推進する必要がある。

（２）第１回会議の振り返り

分野	進むべき方向性や重要となる施策等に関する意見
福祉	• ８割以上の区民が地域活動等への参加意欲を示しているところは、注目するべき点である。住民の人たちが自分たちのまちをどうやって作っていくべきか、住民の力を形にすることが重要。このような意識調査から分かる住民の潜在力に着眼しながら、基本構想を描き、今後の計画・施策づくりにつなげていくことが重要。 • 知的・精神障がいの手帳所持者数は増加している。今後は生産年齢人口が減っていくこともあり、高齢者・障がい者の就労が大きなテーマである。一人ひとりが自分らしい働き方をして、誰１人取り残さないという方向性が必要ではないか。 • 近年の技術の進展に応じて、障がいがある方への合理的配慮が技術の力でできるようになってきている。羽田イノベーションシティでの先端技術等を、様々な障がいに対する合理的配慮を生み出すことに生かすことが必要である。



（２）第１回会議の振り返り

分野

健康・スポーツ



進むべき方向性や重要となる施策等に関する意見

- 特定健康診査の受診率が低い、国民健康保険加入者の医療費が23区平均より高いなどの課題もあるが、スポーツ健康都市宣言をしている以上、しっかりと分析し、取り組んでいかなければならない。
- 地域ごとの特性を生かした健康づくりを行っていくことが重要。
- 地域スポーツを活性化し、元気高齢者や元気な現役世代を作っていき、そこで削減できたお金を子ども・教育・若者施策（学童の保留児童解消や老朽化した学校の建て替え等）に充てていくという考えもある。
- 羽田空港があるというのは大田区の魅力だが、同時に感染症のリスクは常に考えておかなければならない。

（２）第１回会議の振り返り

分野

人口

進むべき方向性や重要となる施策等に関する意見

- 大田区と比べ人口が多く、住宅価格が高い世田谷区よりも大田区の転出超過数が多くなっている点をしっかり分析しながら解決していかなければならない。
- 大田区ではファミリータイプのマンションがほとんど新規ではできない。まちづくりの部署等とも連携しながらこのあたりを解決し、2040年ごろに子どもが大田区で増え、納税者も増え、まちも活性化し、高齢者も元気になっていく、こういう大田区づくりが理想。
- 区外へ移りたい理由の第一位は住宅価格で約20%、続いて、公園を含む住環境、まちのブランドイメージとなっている。福祉や子育て施策だけではなく、その他の要因も大きいため、複合的要因を分析した上で対策をとるべきである。
- 子育て施策に取り組んでいるにも関わらず、子育て世帯に選ばれないのは、子育て施策の充実に関するプロモーションが十分でなく、子育て世帯に分かってもらえてないからではないか。

（２）第１回会議の振り返り

分野	進むべき方向性や重要となる施策等に関する意見
自治体経営	• 質の高い区民サービスを提供する、持続可能な区役所を作ることが大事である。区役所職員も、リカレント教育で新しい知識を身につけ、よりよい区にしていく工夫をすることが大事ではないか。 • 地域活動について区に相談すると、たらい回しにあうことがある。部局を横断するテーマは、色々な課が一緒に取り組む必要がある。 • 区の取組の分かりやすい発信と、区民が必要な情報にたどり着くアクセスの向上が必要である。



（２）第１回会議の振り返り

分野

その他

進むべき方向性や重要となる施策等に関する意見

- 町会の活動と小学校の活動が掛け算となって新しい効果が出るなど、地域の魅力を掛け算して新しい魅力を発信・発見していけるといった点にもう少し着目してもよいと思う。
- 上から押し付けられて何かをやるのではなく、自分たちのまちは自分たちの手でつくるという意識が重要。高齢者と若者では考えが異なるが、総合的に暮らしやすい状況をみんなで作って行くことが重要。
- 地域での子育てや職人を育てることを考えるとき、早期離職し、再就職を希望する人と、産業をマッチングさせる仕組み等が大田区でできると、町工場と地域双方にとってプラスとなる。
- 社会貢献をしたいという意識を持っている人が８割もいるので、これをどう形にしていくかが大事である。仕事やボランティアなど、色々な可能性がある。
- 今後は異常気象が深刻化すると予想される。海も川もある大田区では、災害対策は継続して実施する必要がある。

（２）第１回会議の振り返り

分野	進むべき方向性や重要となる施策等に関する意見
その他	・町会で地域の企業の賛助会員制度を設け、災害などの緊急時に備えて地域の企業と会員が同じレベルで話し合いをする機会を設けている。このように、組織同士が連携・協働していく仕組みを後世に遺す必要があるのではないか。 ・災害の視点はこれから非常に重要である。特に災害時には公的なサービスだけでは手が回らないのが現実なので、市民一人ひとりが動き、頼りになる場所をつくっていくことが必要ではないか。

２　第１回会議の振り返り等

（３）追加データ
①転出理由

（３）転出者アンケート調査　概要

調査目的	大田区からの転出者に対して、住むまちを選択する上で何を重視したか等を聞き取ることにより、区の課題を抽出することを目的とする。
調査の設計	（１）調査の対象　東京都内（大田区を除く）、神奈川県、千葉県、埼玉県への転出者 （２）調査期間　令和４年４月18日から令和５年６月30日 （３）調査票配布数　約14,000人（令和5年６月30日時点　概算） （４）調査方法　戸籍住民課及び特別出張所における窓口配布
調査内容	○基本情報（年代、性別など） ○転出先 ○他自治体を居住地に選んだ理由 ○その他(まちのイメージ、自然環境、子育て支援など)
回収結果	回答者数　1,547件 回答率　約11%

（３）転出者アンケート調査　結果

（質問）転出後住所をご回答ください。（１つだけ選択）

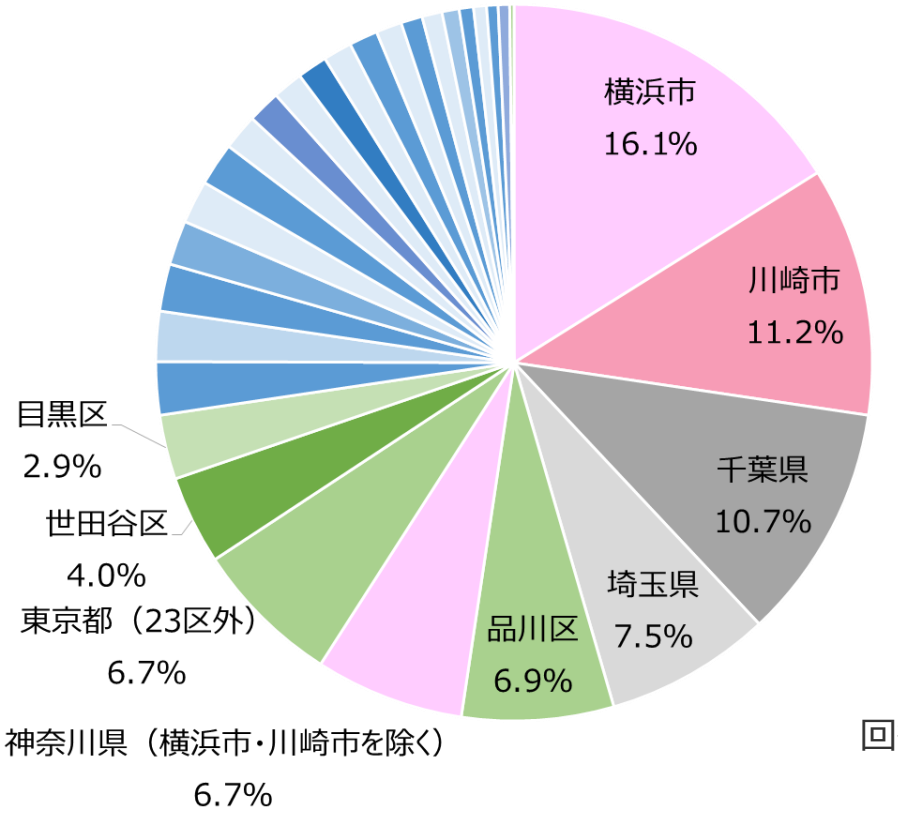
（回答結果）転出後第１位は「横浜市（16.1%）」

・転出後は「横浜市（16.1%）」、「川崎市（11.2%）」、「千葉県（10.7%）」の順となっている。

・23区では、「品川区（6.9%）」が最も多く、次いで「世田谷区」、「目黒区」の順となっている。

自治体	合計
横浜市	249
川崎市	174
千葉県	165
埼玉県	116
品川区	106
神奈川県（横浜市・川崎市を除く）	104
東京都（23区外）	103
世田谷区	62
目黒区	45
江東区	37
港区	35
板橋区	33
杉並区	31
墨田区	30
足立区	30
台東区	25
葛飾区	23
練馬区	21
中央区	21
中野区	20

※上位20番目まで



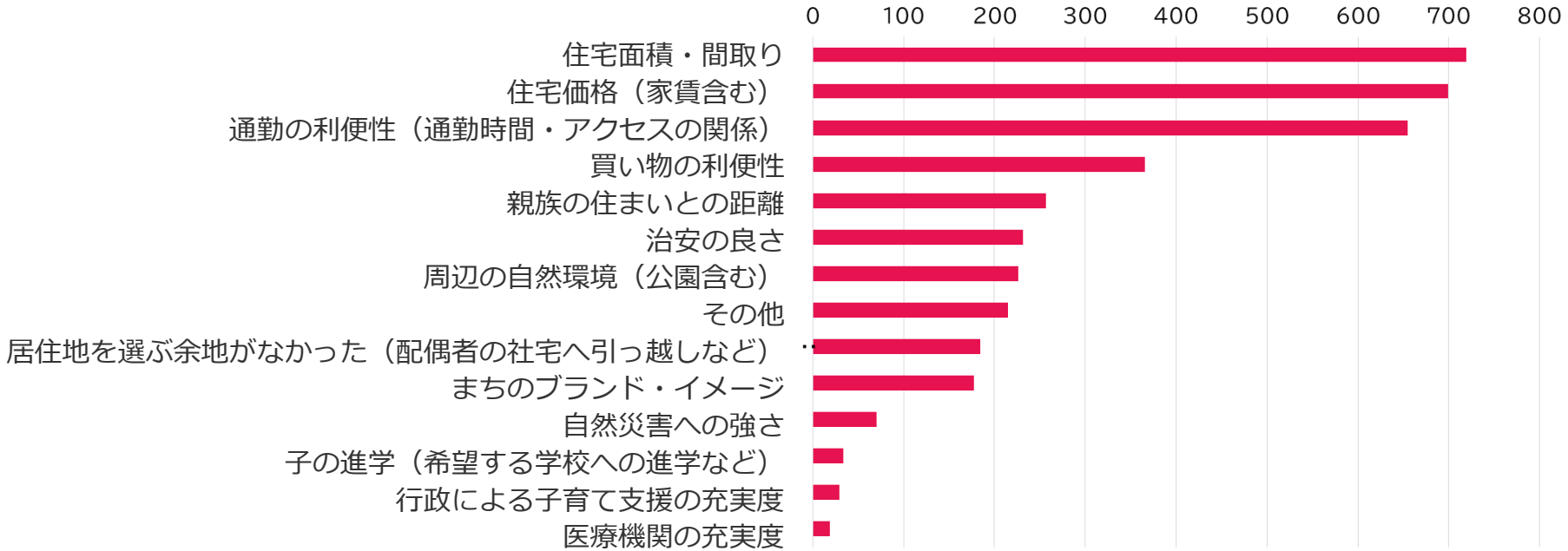
回答者数：1,547

（３）転出者アンケート調査　結果

（質問）転出先の居住地を選んだ理由をご回答ください。（上位３つまで選択）

（回答結果）第１位は「住宅面積・間取り」

・１位から3位までの合計数における第１位は、「住宅面積・間取り」であり、「住宅価格（家賃含む）」、「通勤の利便性（通勤時間・アクセスの関係）」がこれに次いでいる。



回答総数：3,893
回答者数：1,547

（３）転出者アンケート調査　結果

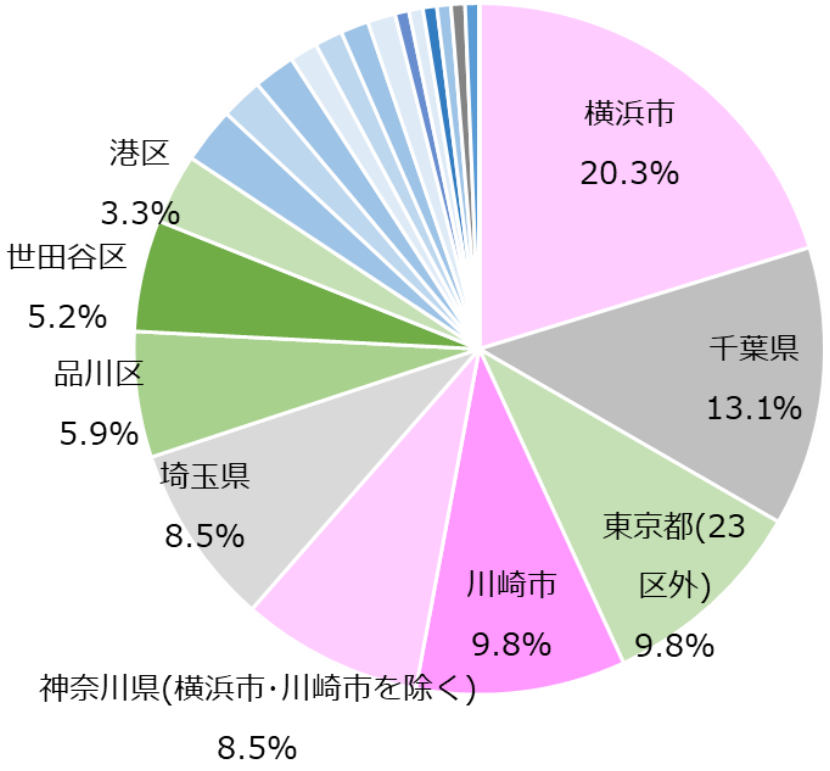
（質問）子供が１人以上かつ20代～40代の世帯に絞った、転出後住所（１つだけ選択）

（回答結果）転出後第１位は「横浜市（20.3%）」

・転出後は「横浜市（20.3%）」、「千葉県（13.1%）」、「東京都（23区外）（9.8%）」の順となっている。

・23区では、「品川区（5.9%）」が最も多く、次いで「世田谷区」、「港区」の順となっている。

自治体	合計
横浜市	31
千葉県	20
東京都(23区外)	15
川崎市	15
神奈川県(横浜市･川崎市を除く)	13
埼玉県	13
品川区	9
世田谷区	8
港区	5
江東区	4
杉並区	3
足立区	3
目黒区	2
練馬区	2
葛飾区	2
その他	2
中央区	1
新宿区	1
文京区	1
墨田区	1



回答者数：153

※上位20番目まで

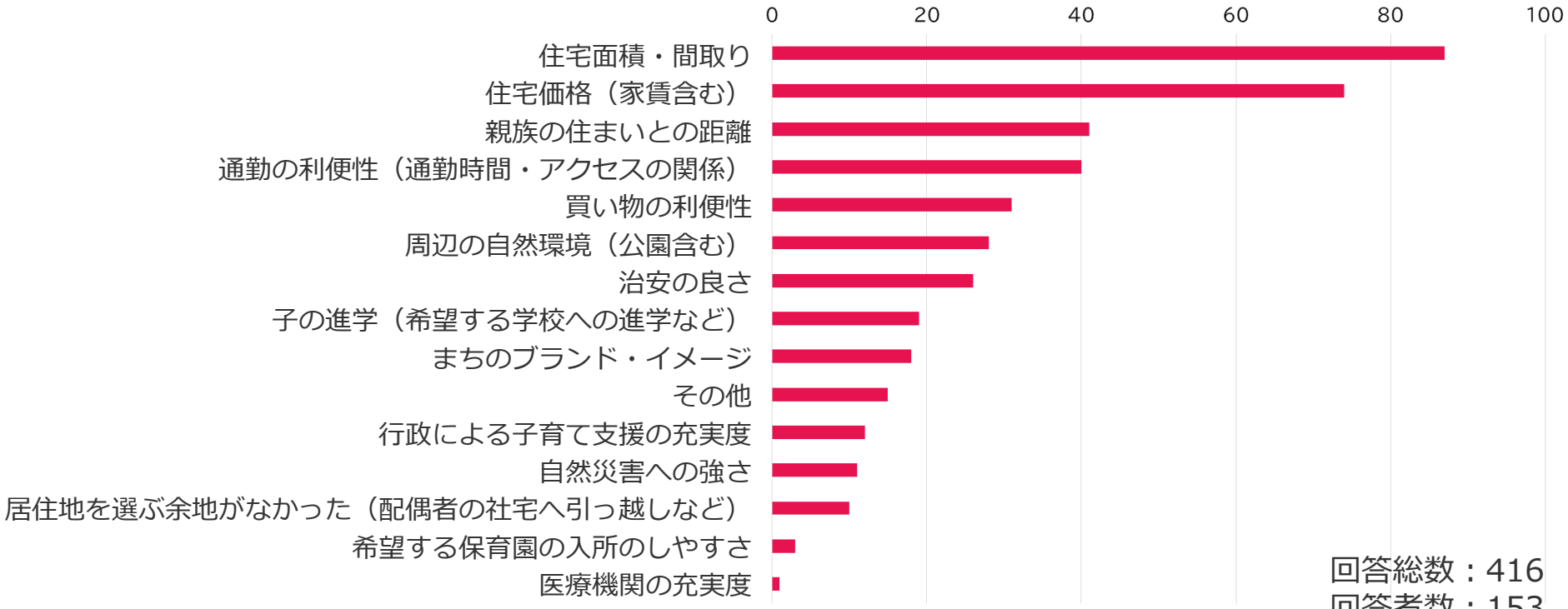
※クロス集計のため得票数が少ない点に注意

（３）転出者アンケート調査　結果

（質問）子供が１人以上かつ20代～40代の世帯に絞った、
転出先の居住地を選んだ理由（上位３つまで選択）

（回答結果）第１位は「住宅面積・間取り」

・１位から３位までの合計数における第１位は、「住宅面積・間取り」であり、「住宅価格（家賃含む）」、「親族の住まいとの距離」がこれに続いている。



回答総数：416
回答者数：153

※クロス集計のため得票数が少ない点に注意

２　第１回会議の振り返り等

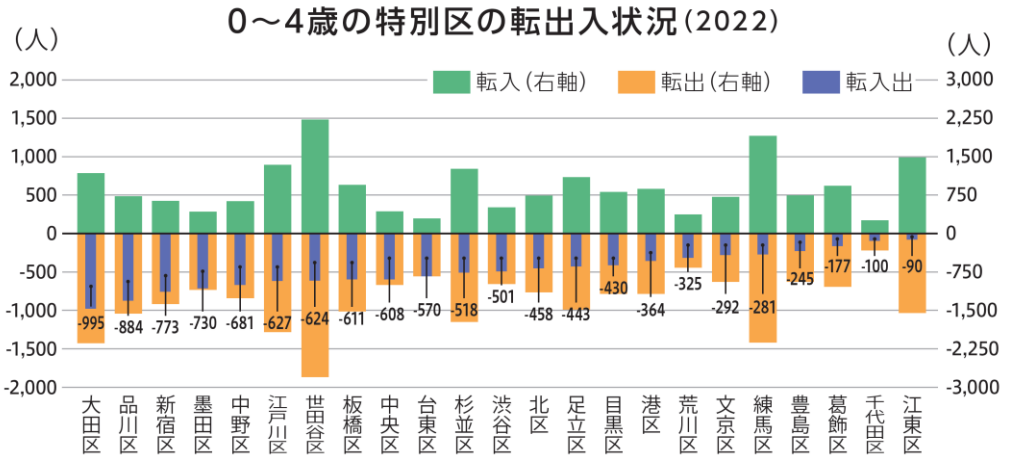
（３）追加データ
②人口関連

（3）人口関連データ

大田区における0～4歳の転入転出増減数推移（23区中の順位）

年	増減数（転入数－転出数）	順位（ワースト）
2017	-452	4
2018	-659	1
2019	-834	1
2020	-1096	1
2021	-1009	1
2022	-995	1

（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告」を基に作成



（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告」を基に作成

２　第１回会議の振り返り等

（３）追加データ
③「おおたの未来づくり」

（３）「おおたの未来づくり」

●「おおたの未来づくり」とは

未来を創る「**創造的な資質・能力**」の育成を目指す
令和７年度に新設予定の**大田区独自教科**（全小学校５・６年生対象）

教科**「おおたの未来づくり」**の新設

探求　**創造的な資質・能力**の育成　**創造**

知識及び技能

「ものづくり」や「地域の創生」に必要な知識及び技能



思考力、判断力、表現力等

試行錯誤して、地域の社会や人々の「Well-being」につながるものや取組を発信できる力



学びに向かう力、人間性等

実社会で活躍する様々な人との関わりを大切にする態度

自分や他者のよさを生かして主体的に取り組み、よりよい未来を創造しようとする態度

地域の企業・団体等の授業参画

（３）「おおたの未来づくり」

●「おおたの未来づくり」の授業事例

事例１：新しい清涼飲料水の開発



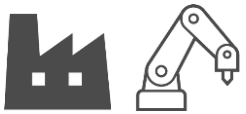
① 企業関係者の方が、教員と学習内容を調整したうえで、児童に新商品の開発という課題を提示。

② 児童は、企業の特長・ターゲットとする客層へのアンケート等を調べ、商品のアイデアを創出。

③ 児童は、商品のアイデアを基に、パッケージデザインや商品名を試行錯誤して創出し、試作品を作り、企業関係者にプレゼンテーション。

④ 企業の方から、児童にフィードバック。

事例２：町工場の魅力をCMで発信



① 児童は、動画の視聴、ゲストティーチャーの方の講話等を通して、ものづくりのまち大田の特長を知る。

② 町工場の方は、教員と内容を調整した上で、見学や体験、インタビュー等を受け入れ、児童の取材に協力。

③ 児童は、取材で得た情報を整理し、伝えたいテーマを決め、CMの構成を考え、動画を編集。

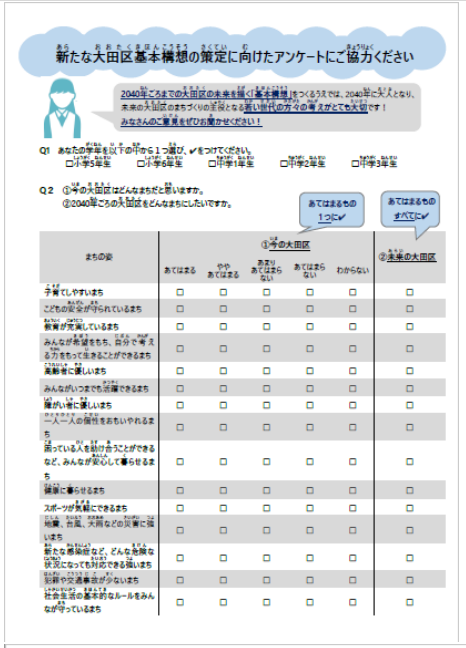
④ 児童は、町工場の方に完成したCMをプレゼンテーション。

⑤ 町工場の方から、児童にフィードバック。HPに掲載するなどして、地域共生の取組の一助とする。

3　アンケート結果等の区民意見の報告（速報）

3　アンケート実施概要

調査目的	大田区の目指すべき将来像を示す「大田区基本構想」の策定に向けて、広くあらゆる世代の区民のみなさまのご意見を伺う
アンケートの概要	①30個のまちの姿について、「今の大田区」にどの程度あてはまるかを選択 ②同じ30個のまちの姿について、未来にこんなまちになってほしいと思うまちの姿にあてはまるものを選択 ③「未来にこんなまちになって欲しい」という意見を自由に記述
対象者	区内在住・在勤・在学の方
配布・回収方法	インターネット・FAX・郵送
調査期間	７月14日から９月11日まで
回答数	（※７月31日時点） 小中学生：11,651件 大人（高校生以上）：4,069件 合計：15,720件 （上記のうち区立小中学校を通じた回答数 小中学生：11,614件　　保護者：3,418件）


新たな大田区基本構想の策定に向けたアンケートにご協力ください

2040年ごろまでの大田区の未来を描く「基本構想」をつくるうえでは、2040年に大人となり、未来の大田区のまちづくりの主役となる若い世代の方々の考えがとても大切です！
みなさんのご意見をぜひお聞かせください！

Q1　あなたの学年を以下の中から1つ選び、✔をつけてください。
□小学5年生　□小学6年生　□中学1年生　□中学2年生　□中学3年生

Q2　①今の大田区はどんなまちだと思いますか。
②2040年ごろの大田区をどんなまちにしたいですか。

あてはまるもの1つに✔　あてはまるものすべてに✔

まちの姿	①今の大田区 あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	あてはまらない	わからない	②未来の大田区
子育てしやすいまち	□	□	□	□	□	□
こどもの安全が守られているまち	□	□	□	□	□	□
教育が充実しているまち	□	□	□	□	□	□
みんなが多様なもち、自分で考える力をもって生きることができるまち	□	□	□	□	□	□
高齢者に優しいまち	□	□	□	□	□	□
みんながいつまでも活躍できるまち	□	□	□	□	□	□
障がい者に優しいまち	□	□	□	□	□	□
一人一人の個性をおもいやれるまち	□	□	□	□	□	□
困っている人を助け合うことができるなど、みんなが安心して暮らせるまち	□	□	□	□	□	□
健康に暮らせるまち	□	□	□	□	□	□
スポーツが気軽にできるまち	□	□	□	□	□	□
地震、台風、大雨などの災害に強いまち	□	□	□	□	□	□
新たな感染症など、どんな危険な状況になっても対応できる強いまち	□	□	□	□	□	□
犯罪や交通事故が少ないまち	□	□	□	□	□	□
社会生活の基本的なルールをみんなが守っているまち	□	□	□	□	□	□
電車やバスなどの交通が便利で移動しやすいまち	□	□	□	□	□	□
多くの人が集まり、元気のあるまち	□	□	□	□	□	□
水や緑と触れ合えるまち	□	□	□	□	□	□
休日や休めたり遊んだりすることができる、公園などが多くあるまち	□	□	□	□	□	□
住んでいる地域の人たちのつながりが強く、みんなで協力しあえるまち	□	□	□	□	□	□
デジタル化が進んで便利なまち	□	□	□	□	□	□
国や地域などが異なる様々なお互いを理解し、おもいやれるまち	□	□	□	□	□	□
工場や会社や商店などの産業・経済に活力があるまち	□	□	□	□	□	□
新しいビジネスやサービスが生まれるまち	□	□	□	□	□	□
文化や芸術が充実しているまち	□	□	□	□	□	□
区外から多くの人が訪れるまち	□	□	□	□	□	□
区民がまちを自慢でき、愛する心を持てるまち	□	□	□	□	□	□
地球環境を守り、豊かな暮らしを受け継いでいくまち	□	□	□	□	□	□
みんなで環境にやさしい行動をとっているまち	□	□	□	□	□	□
福の国の人が、仕事や旅行などで訪れたくなる魅力あるまち	□	□	□	□	□	□

Q3　まちの未来の姿に関するご意見がありましたら、自由に記入してください。
※個人情報は記載しないようお願いします。

この調査についてのお問い合わせはこちら
大田区企画経営部企画課　計画・基本構想担当　☎03-5744-1735

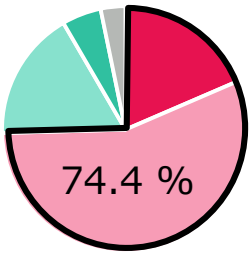
3　アンケート結果概要　※7月31日時点

大人が思う今の大田区のまちの姿

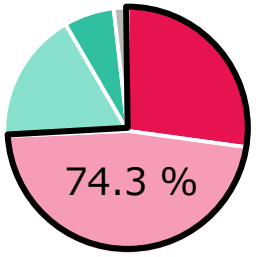


※「あてはまる」・「ややあてはまる」合計値上位３項目

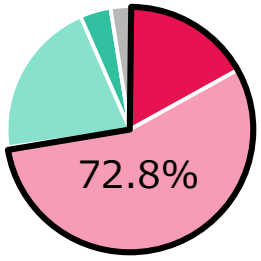
① 子育てしやすいまち



② 交通の利便性がよいまち

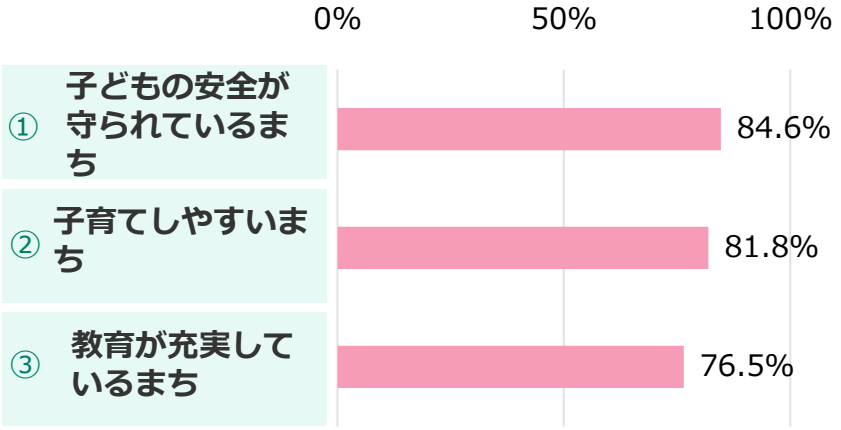


③ にぎわいのあるまち

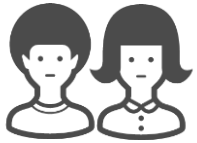


■あてはまる　■ややあてはまる　■あまりあてはまらない
■あてはまらない　■わからない

大人が望む2040年ごろの大田区のまちの姿

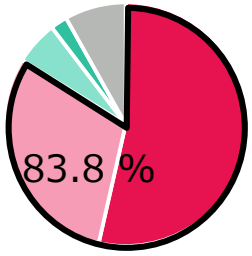


子どもが思う今の大田区のまちの姿

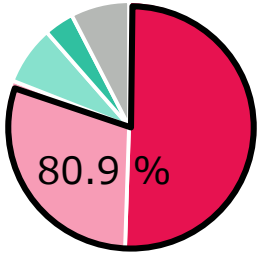


※「あてはまる」・「ややあてはまる」合計値上位３項目

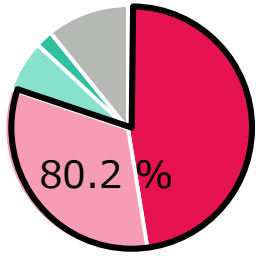
① 交通の利便性がよいまち



② 公園など憩いの場が充実しているまち

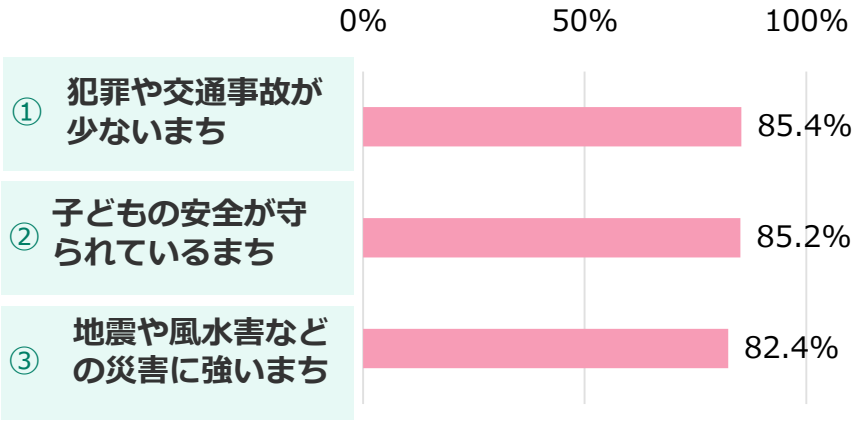


③ 健康に暮らせるまち



■あてはまる　■ややあてはまる　■あまりあてはまらない
■あてはまらない　■わからない

子どもが望む2040年ごろの大田区のまちの姿

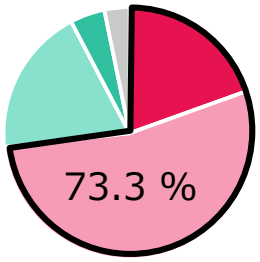


3　アンケート結果概要　※7月31日時点

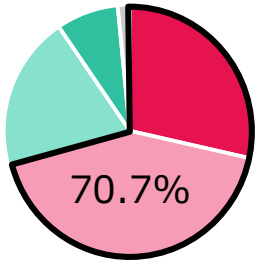
大人・一般が思う今の大田区のまちの姿

※「あてはまる」・「ややあてはまる」合計値上位３項目

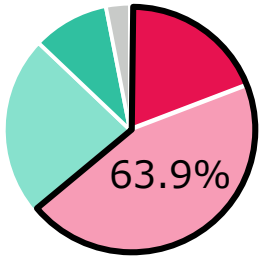
① にぎわいのあるまち



② 交通の利便性がよいまち

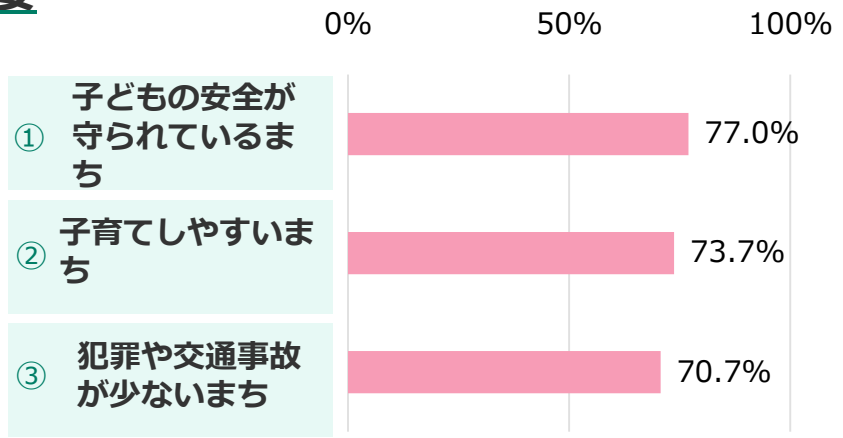


③ 水や緑と触れ合えるまち



■あてはまる　■ややあてはまる　■あまりあてはまらない
■あてはまらない　■わからない

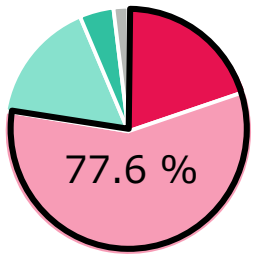
大人・一般が望む2040年ごろの大田区のまちの姿



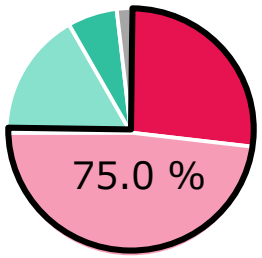
大人・保護者が思う今の大田区のまちの姿

※「あてはまる」・「ややあてはまる」合計値上位３項目

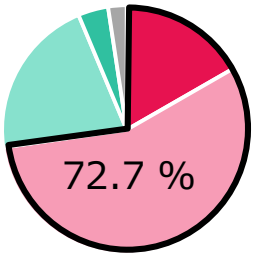
① 子育てしやすいまち



② 交通の利便性がよいまち

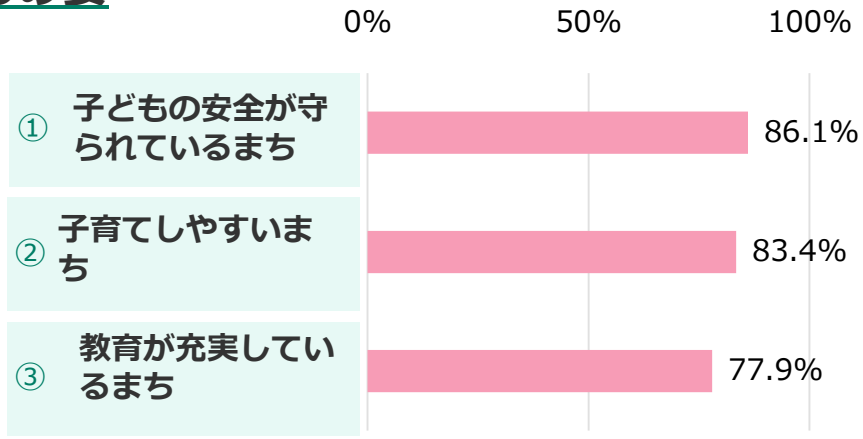


③ にぎわいのあるまち



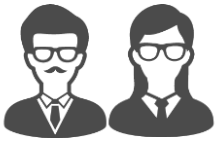
■あてはまる　■ややあてはまる　■あまりあてはまらない
■あてはまらない　■わからない

大人・保護者が望む2040年ごろの大田区のまちの姿

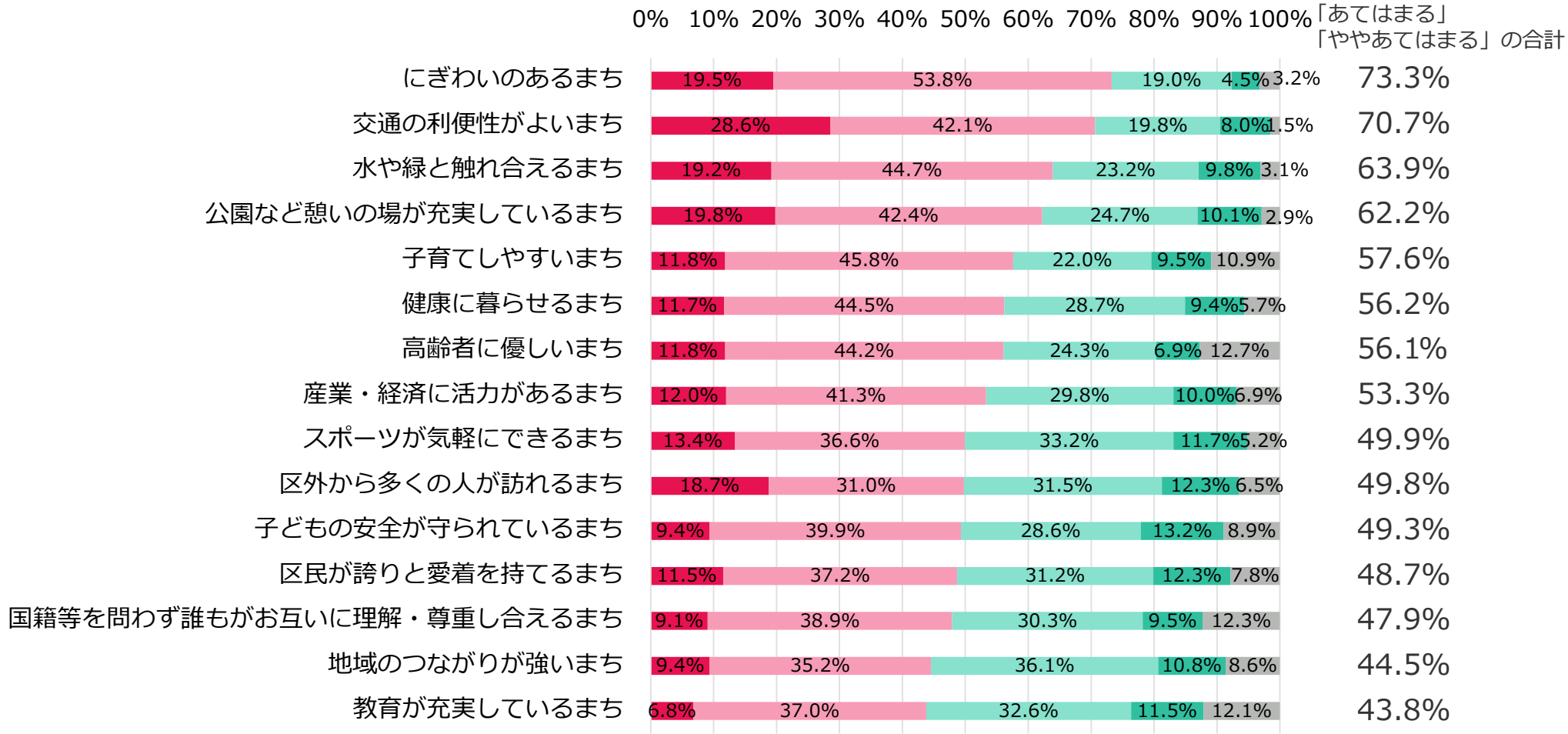


3　アンケート結果概要（大人・一般）

Q2-①　今の大田区はどんなまちだと思いますか。（あてはまるものを１つ選択）

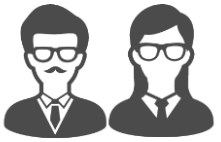


今の各まちの姿の結果①（上位15項目）※「あてはまる」・「ややあてはまる」の合計値順

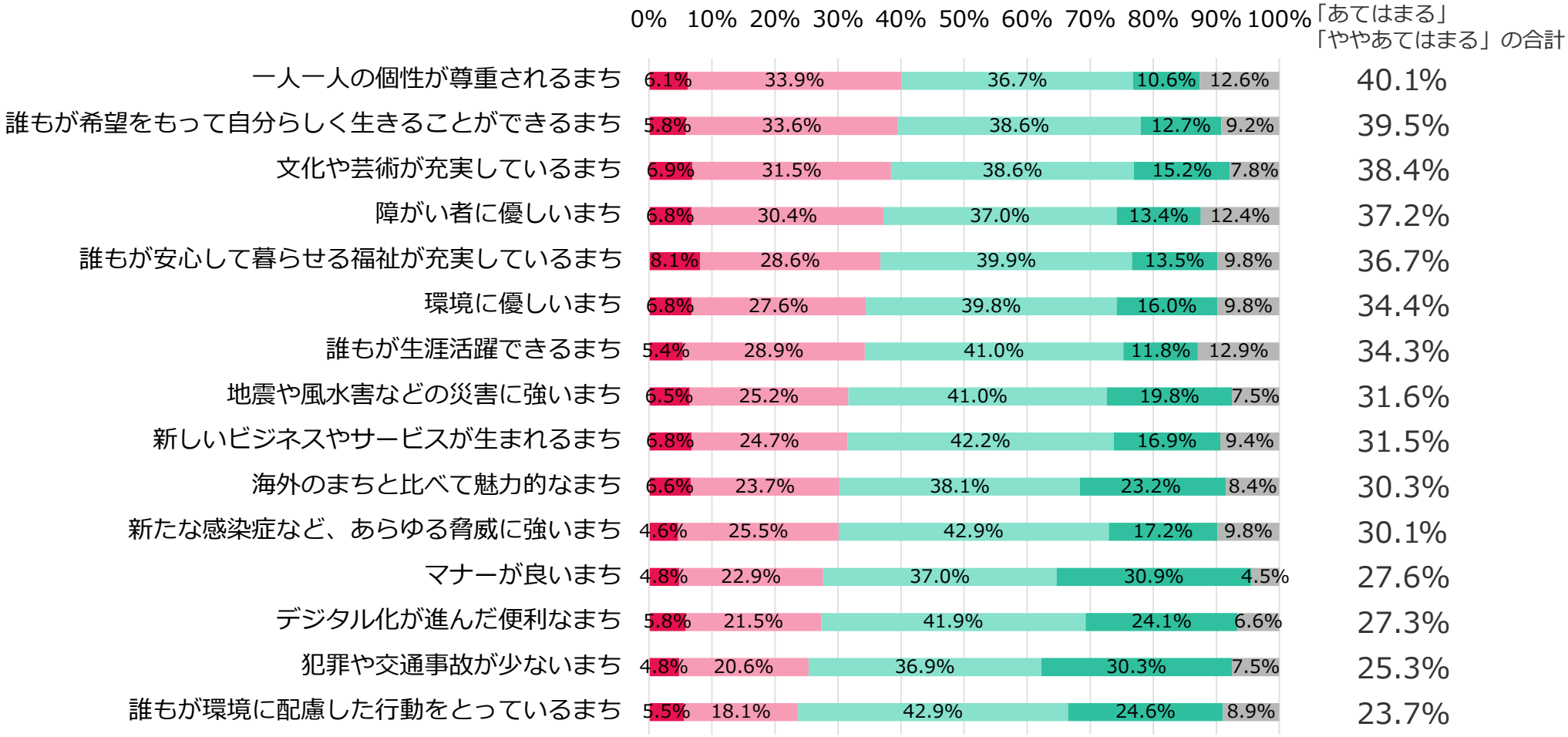


3　アンケート結果概要（大人・一般）

Q2-①　今の大田区はどんなまちだと思いますか。（あてはまるものを１つ選択）

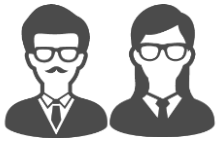


今の各まちの姿の結果②（下位15項目）※「あてはまる」・「ややあてはまる」の合計値順

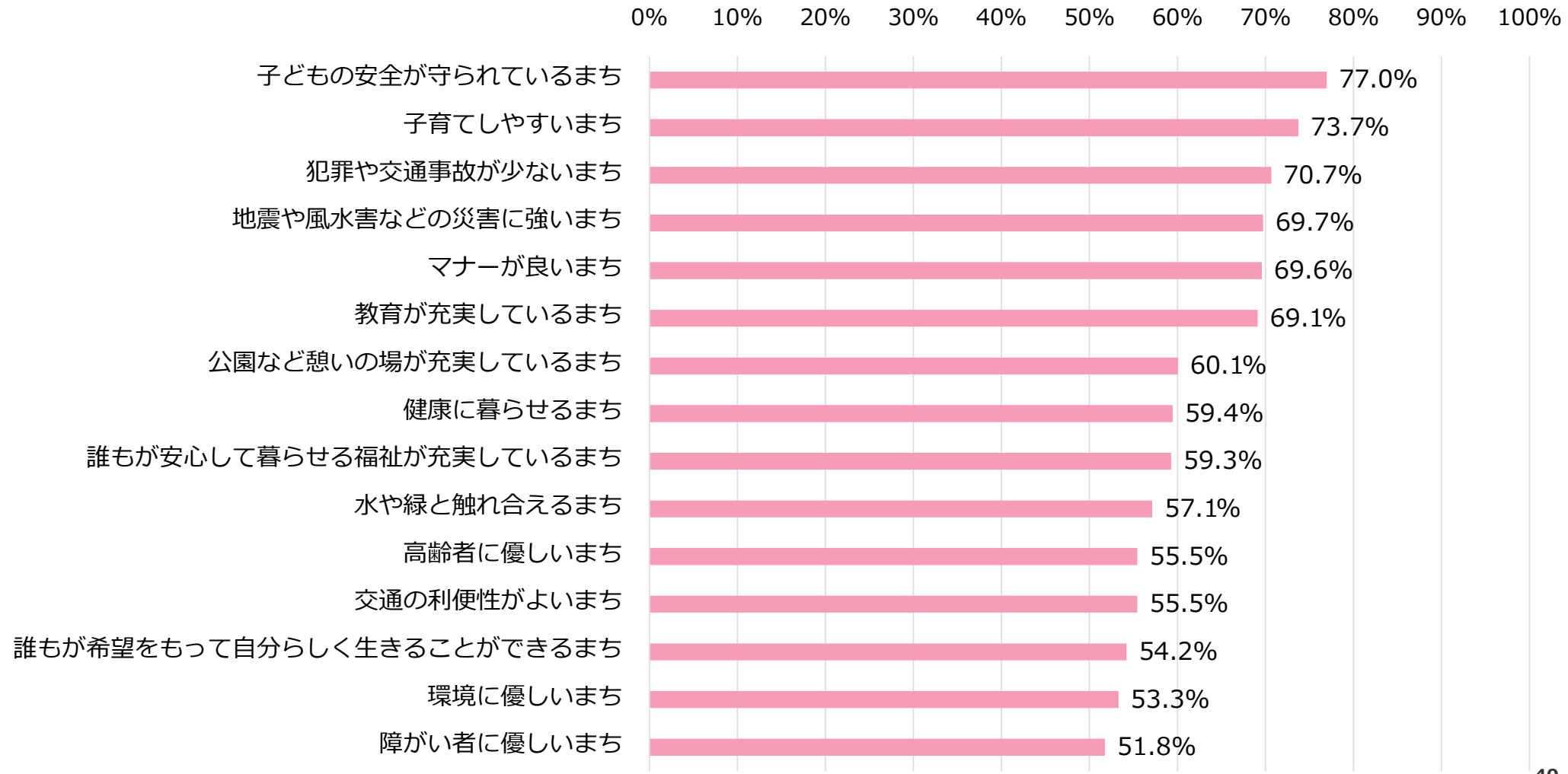


3　アンケート結果概要（大人・一般）

Q2-②　2040年ごろの大田区をどんなまちにしたいですか。（あてはまるものを全て選択）



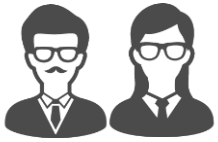
2040年ごろの各まちの姿の結果①（上位15項目）

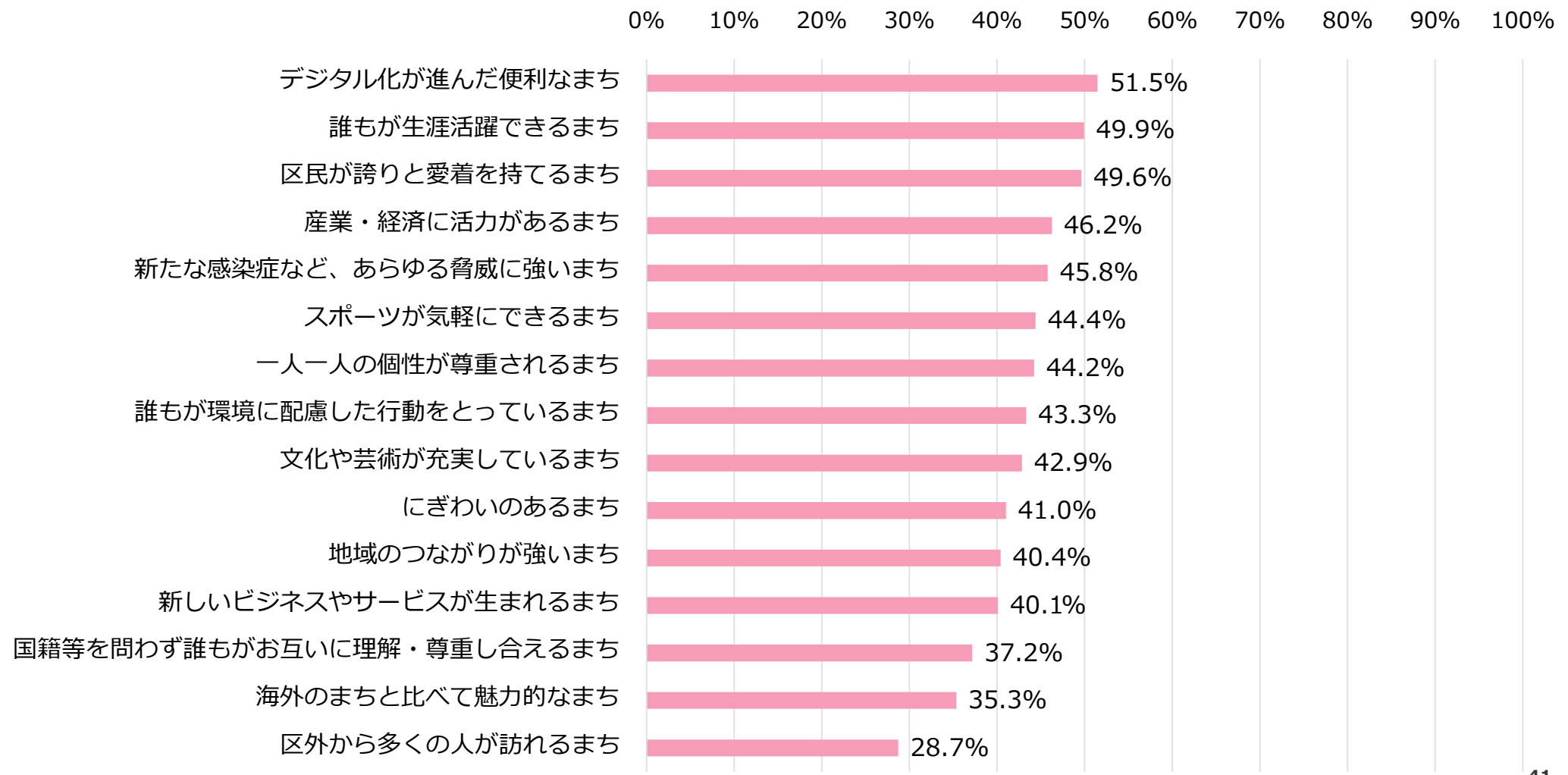


3　アンケート結果概要（大人・一般）

Q2-②　2040年ごろの大田区をどんなまちにしたいですか。（あてはまるものを全て選択）

2040年ごろの各まちの姿の結果②（下位15項目）



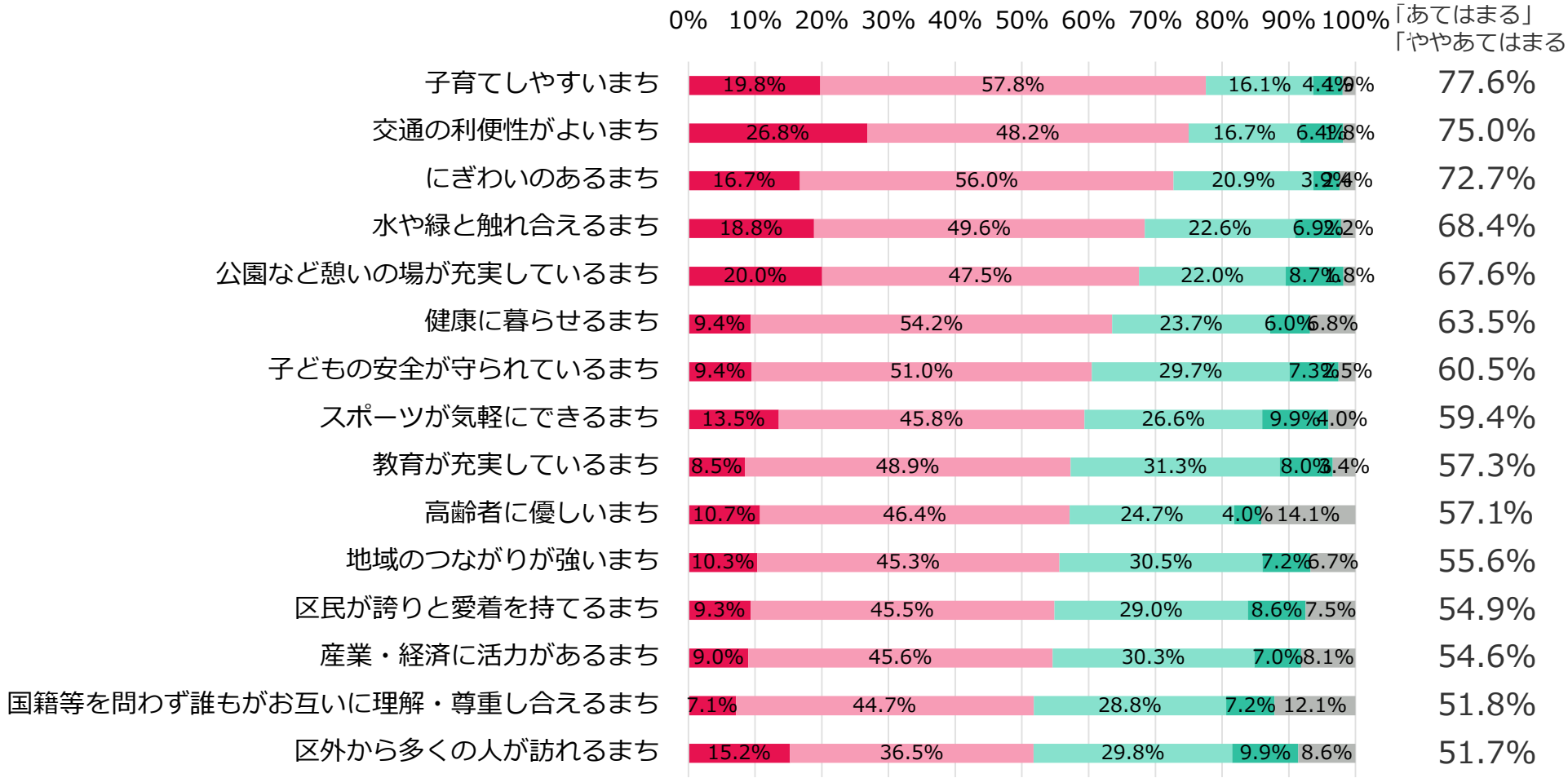


3　アンケート結果概要（大人・保護者）

Q2-①　今の大田区はどんなまちだと思いますか。（あてはまるものを１つ選択）

今の各まちの姿の結果①（上位15項目）※「あてはまる」・「ややあてはまる」の合計値順



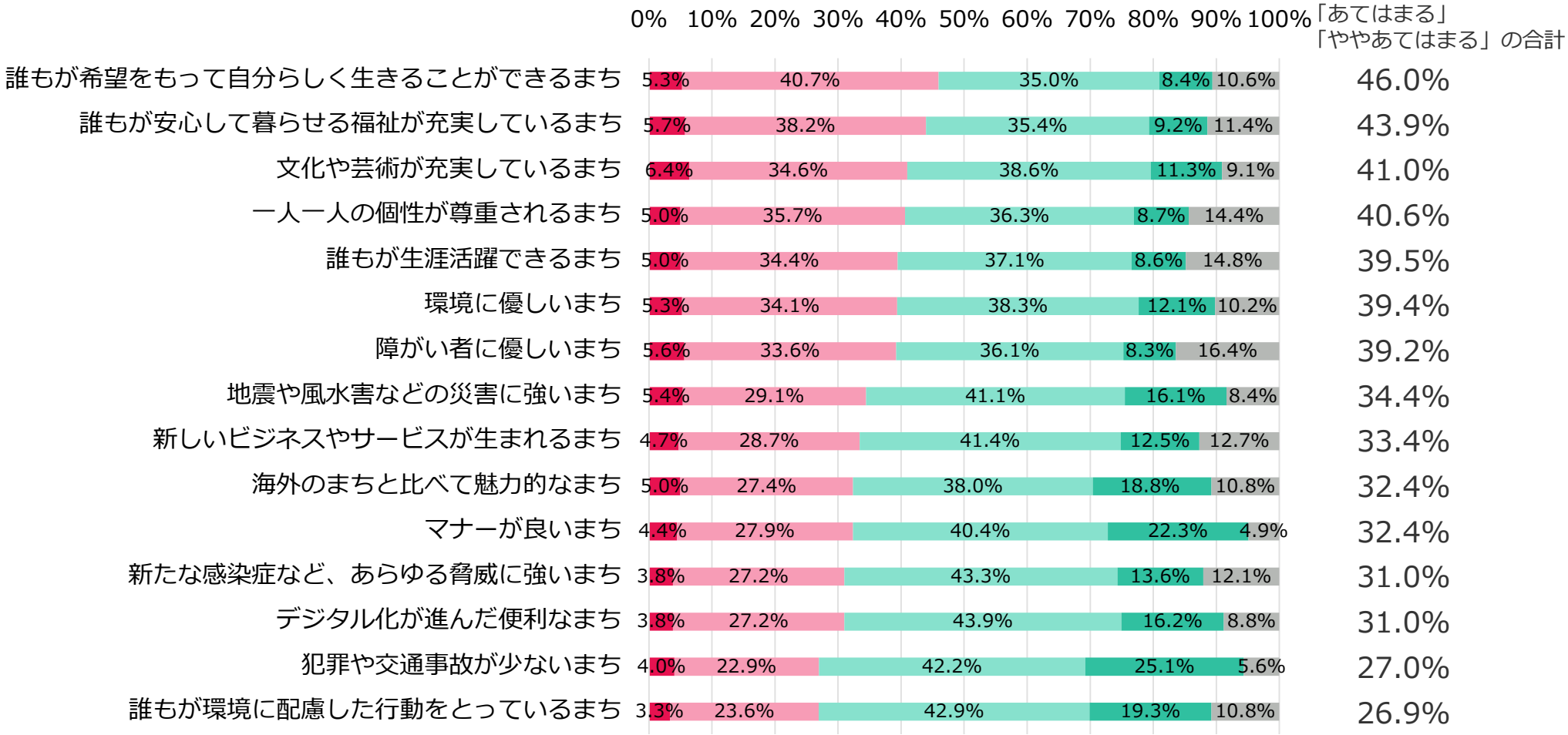


3　アンケート結果概要（大人・保護者）

Q2-①　今の大田区はどんなまちだと思いますか。（あてはまるものを１つ選択）

今の各まちの姿の結果②（下位15項目）※「あてはまる」・「ややあてはまる」の合計値順



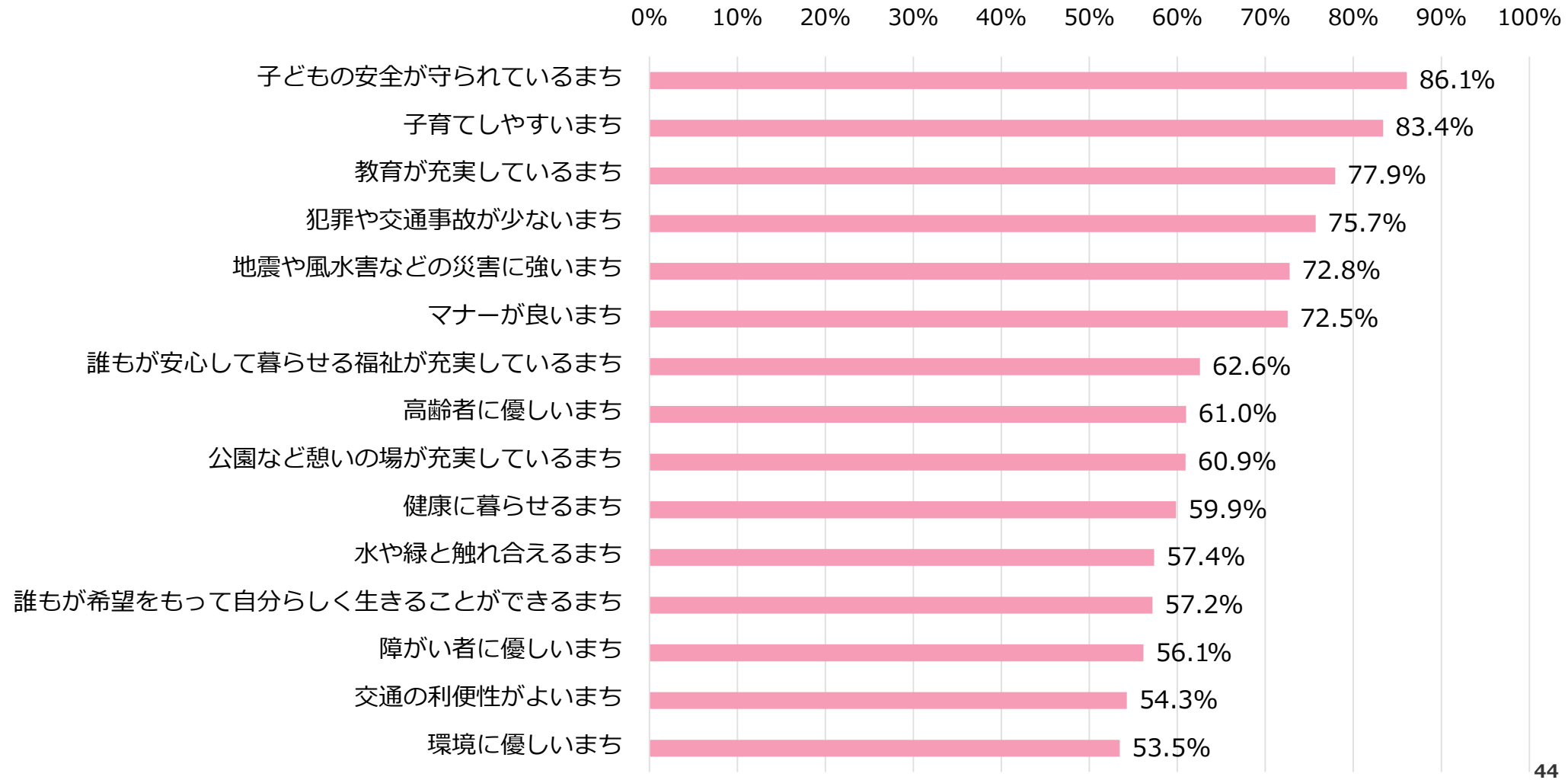


3　アンケート結果概要（大人・保護者）

Q2-②　2040年ごろの大田区をどんなまちにしたいですか。（あてはまるものを全て選択）

2040年ごろの各まちの姿の結果①（上位15項目）



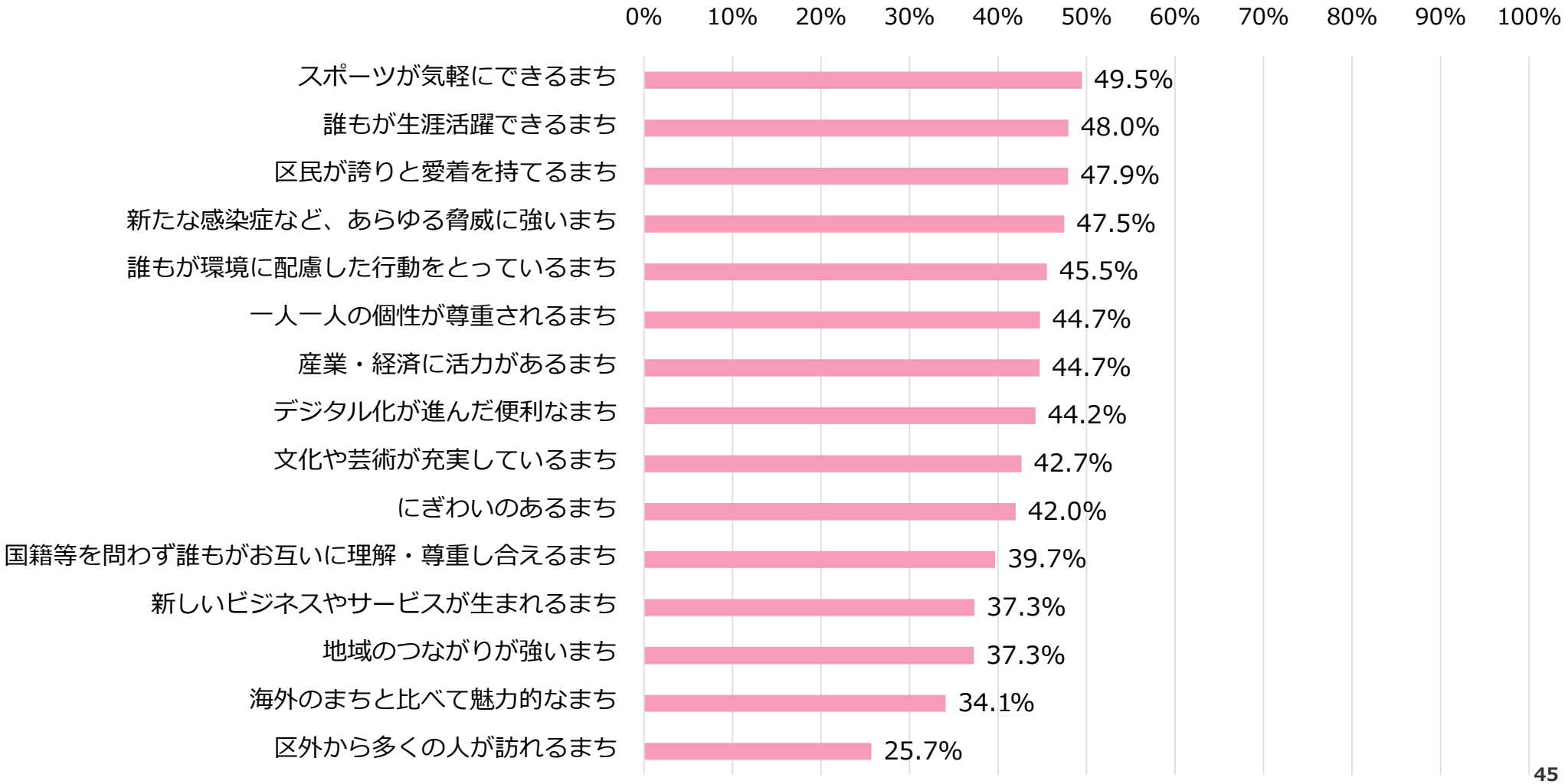


3　アンケート結果概要（大人・保護者）

Q2-②　2040年ごろの大田区をどんなまちにしたいですか。（あてはまるものを全て選択）

2040年ごろの各まちの姿の結果②（下位15項目）

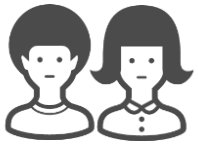


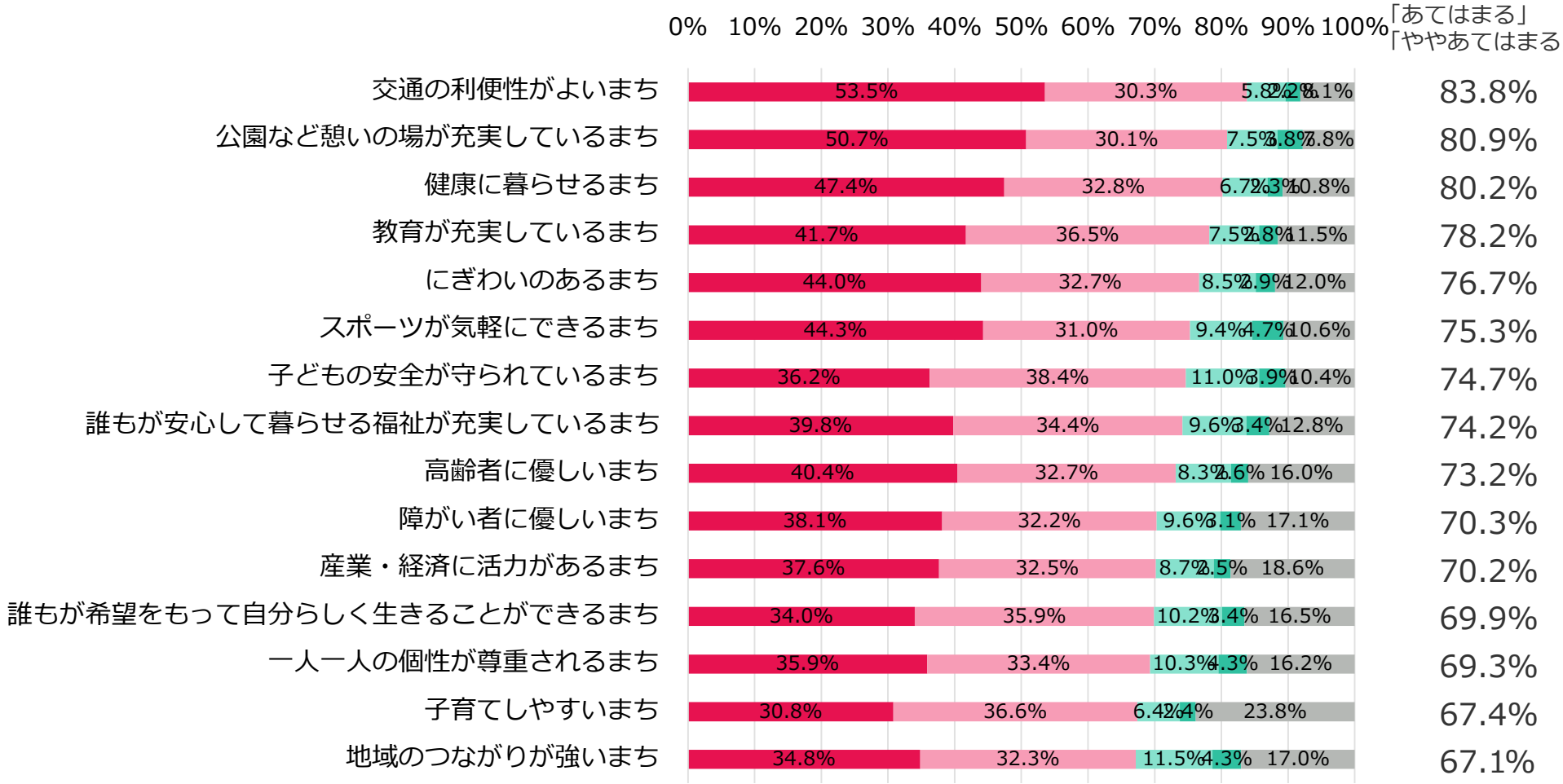


3　アンケート結果概要（小中学生）

Q2-①　今の大田区はどんなまちだと思いますか。（あてはまるものを１つ選択）

今の各まちの姿の結果①（上位15項目）※「あてはまる」・「ややあてはまる」の合計値順

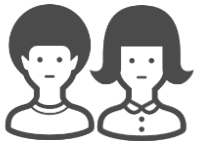


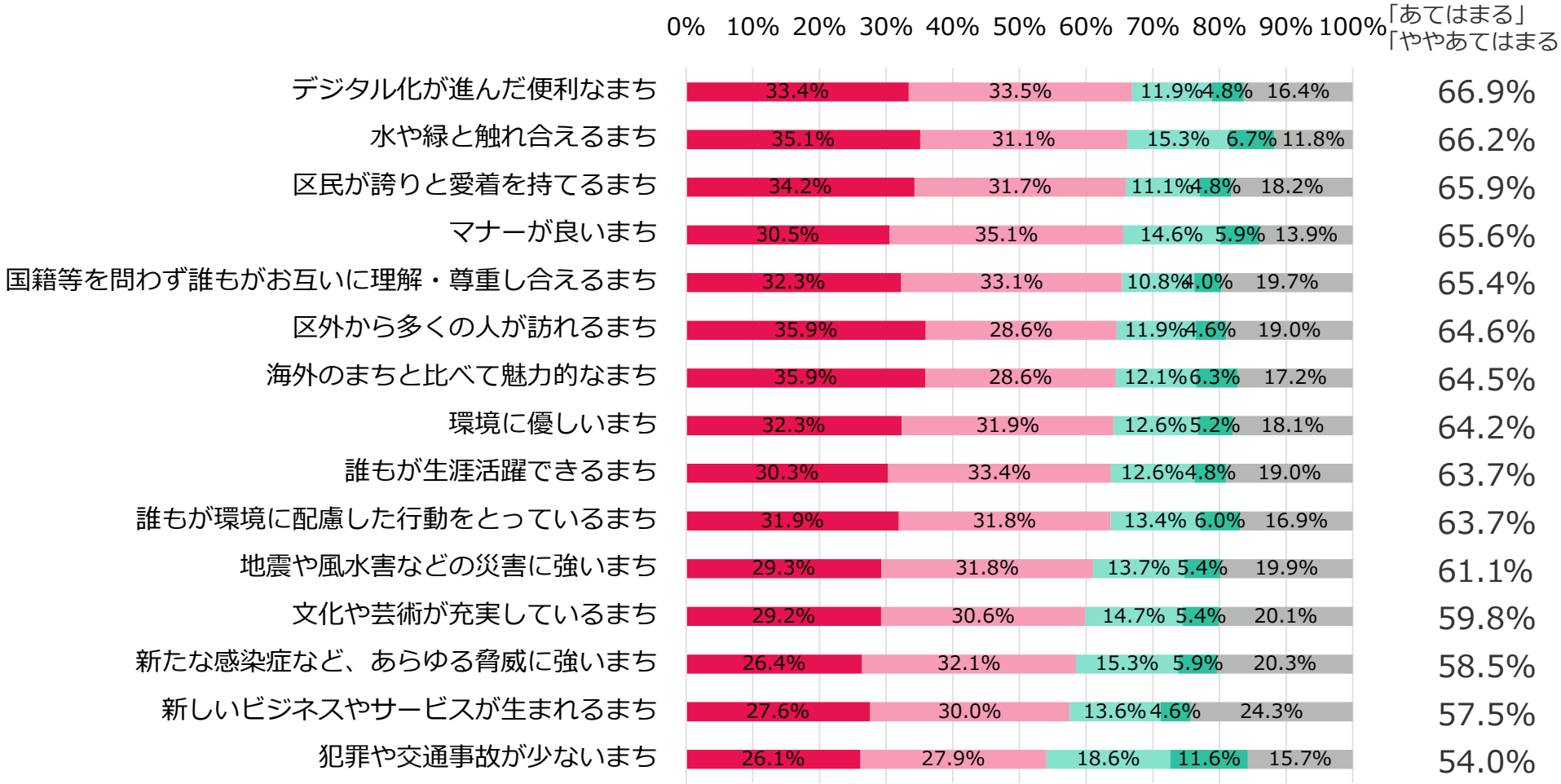


3　アンケート結果概要（小中学生）

Q2-①　今の大田区はどんなまちだと思いますか。（あてはまるものを１つ選択）

今の各まちの姿の結果②（下位15項目）※「あてはまる」・「ややあてはまる」の合計値順

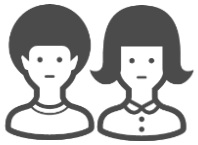


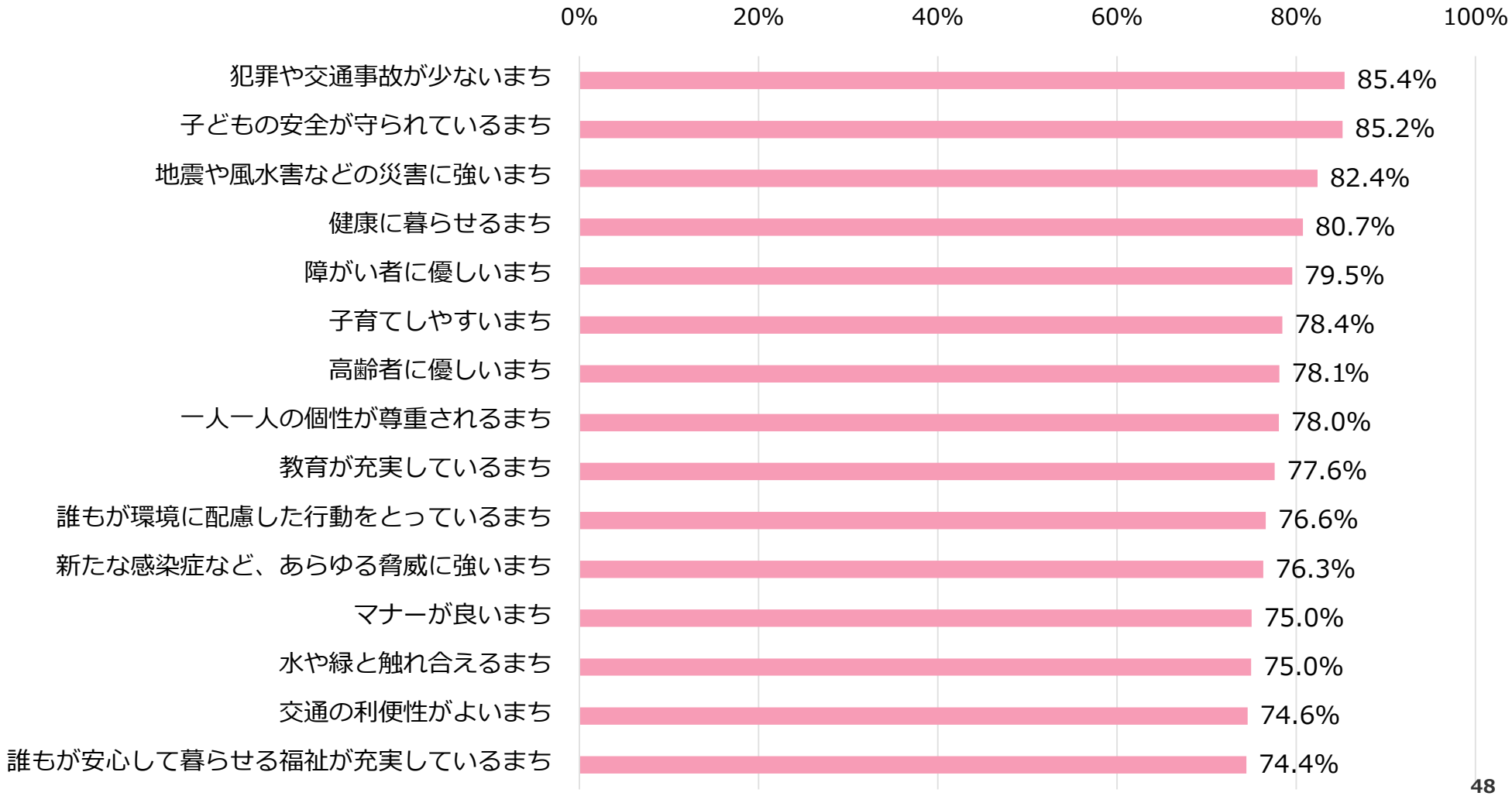


3　アンケート結果概要（小中学生）

Q2-②　2040年ごろの大田区をどんなまちにしたいですか。（あてはまるものを全て選択）

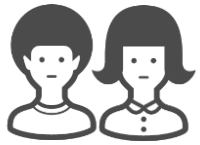
2040年ごろの各まちの姿の結果①（上位15項目）



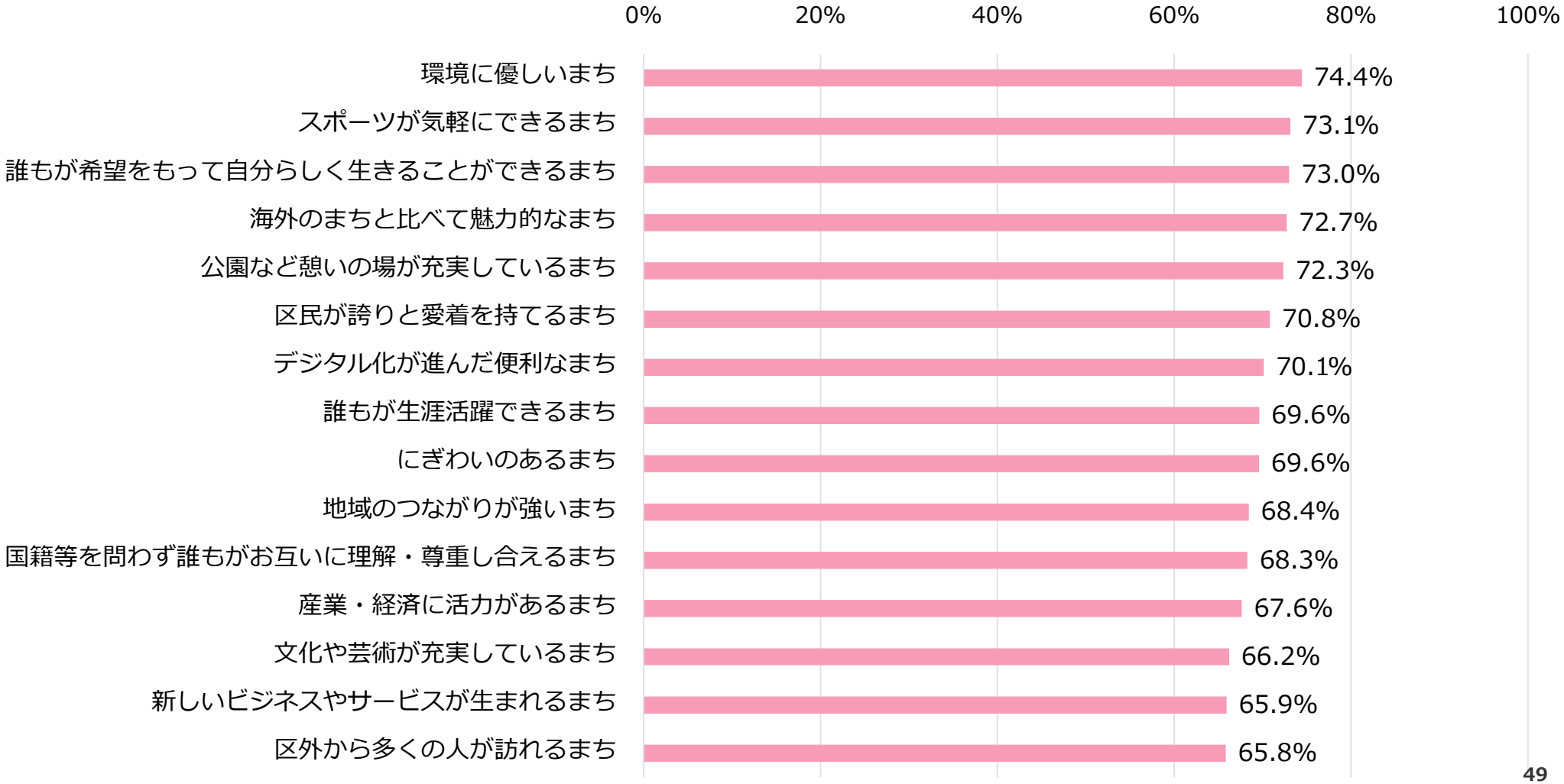


3　アンケート結果概要（小中学生）

Q2-②　2040年ごろの大田区をどんなまちにしたいですか。（あてはまるものを全て選択）

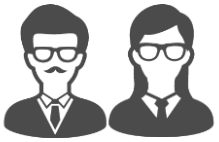


2040年ごろの各まちの姿の結果②（下位15項目）

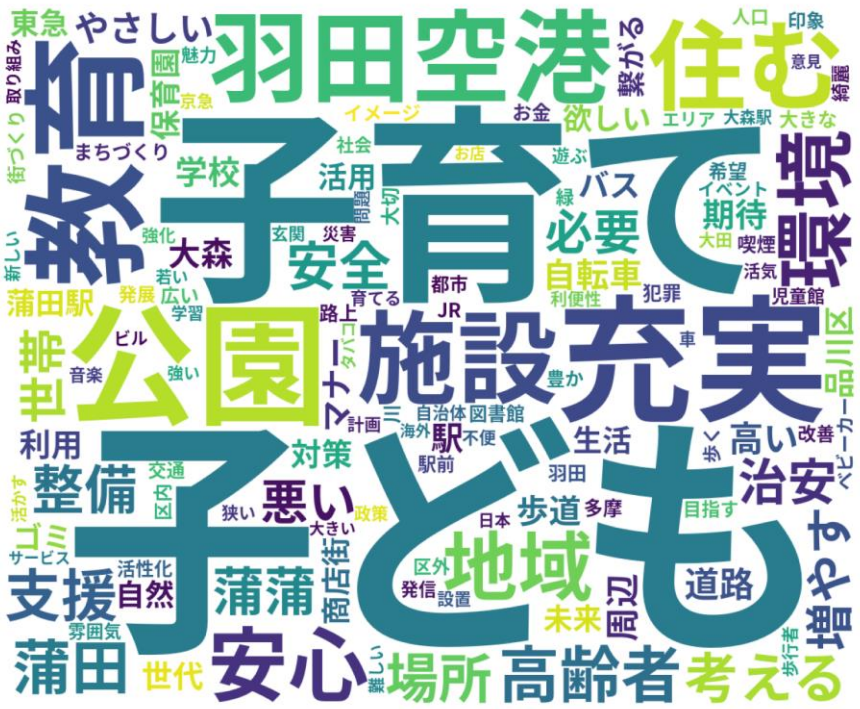


3　アンケート自由記述欄（大人・一般）

Q3　まちの将来像に関するご意見がございましたら、自由に記載をお願いします。



＜302人の自由記述で作成したワードクラウド＞



※ワードクラウド：
　自由意見における単語の出現頻度を文字の大きさで
　表したもの

＜年代別の自由記述頻出語＞

頻出割合	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
高	充実	子ども	子ども	子ども	羽田空港
	子育て	子育て	子育て	羽田空港	充実
	子ども	公園	公園	施設	高齢者
	音楽	教育	安心	安全	環境
	図書館	施設	学校	整備	ゴミ
		支援	高齢者	安心	
		安心	環境	周辺	
		蒲田	教育	高齢者	
		地域	地域	大森	
		治安	自然	都市	

※一部の固有名詞および動詞等を除いて作成
※出現数５つ以上で作成

3　アンケート自由記述欄（大人・保護者）

Q3　まちの将来像に関するご意見がございましたら、自由に記載をお願いします。



＜995人の自由記述で作成したワードクラウド＞



※ワードクラウド：
　自由意見における単語の出現頻度を文字の大きさで
　表したもの

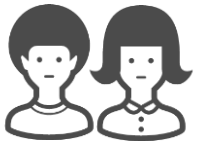
＜年代別の自由記述頻出語＞

頻出割合	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
高	子ども	子ども	子ども	子ども	
	やさしい	公園	公園	教育	
		子育て	子育て	公園	
		蒲田	学校	安心	
		安心	教育	場所	
		場所	安心	環境	
		学校	高齢者	自転車	
		悪い	充実	子育て	
		教育	地域	安全	
		自転車	自転車	学校	

※一部の固有名詞および動詞等を除いて作成
※出現数５つ以上で作成

3　アンケート自由記述欄（小中学生）

Q3　まちの将来像に関するご意見がございましたら、自由に記載をお願いします。



<3,416人の自由記述で作成したワードクラウド>



※ワードクラウド：
　自由意見における単語の出現頻度を文字の大きさで
　表したもの

<年代別の自由記述頻出語>

頻出割合	小５	小６	中１	中２	中３
高	公園	公園	公園	公園	公園
	自然	子ども	ゴミ	子ども	子ども
	やさしい	やさしい	子ども	自然	学校
	子ども	緑	ボール	ボール	きれい
	犯罪	ボール	自然	環境	安全
	楽しい	環境	きれい	治安	治安
	緑	自然	やさしい	安全	ボール
	高齢者	安全	場所	学校	蒲田
	きれい	場所	犯罪	やさしい	教育
	ボール	犯罪	緑	教育	環境

※一部の固有名詞および動詞等を除いて作成
※出現数５つ以上で作成

3　アンケート自由記述欄（まとめ方）

◆自由記述欄のまとめ方

①　アンケートの自由記述を以下の分野ごとに分類
（あてはまる分野全てに分類）

【分野一覧】
人口/**子育て**/**教育**/**高齢者**/**福祉**/**健康・スポーツ**/防災/治安/交通/公園・緑地/住まい/
地域力/国際都市・多文化共生/産業・経済/観光・文化/環境/DX/**自治体経営**/
まちづくり/**その他**
（まちづくり：駅周辺のまちづくり　等　　その他：羽田空港・人権・SDGs　等）

②　分野ごとに主な意見を抽出し、属性別（一般/保護者/小中学生）に記載

3　アンケート自由記述欄（概要）

子育て



属性	主な意見
大人（一般）	• 子育てサービスについては他の区に遅れをとっていると思う。 • 子育てと仕事の両立が非常に大変に感じる。 • 保育園、小学校の学童受け入れ人数が少なくて働けなくなる。
大人 （保護者）	• 少子化対策を念頭に子育て世帯を優遇するべき。子どもを産みたくなるまちづくりを目指してほしい。 • 子育て支援に関して世田谷区や品川区に遅れを取っている感じがする。 • 保育園と同様に学童の充実を図ってほしい。 • 子育て世代に選ばれるまちになってほしい。
小中学生	• 暮らしている街では少子高齢化が目立つ。子育てしやすいまちにしたほうがいいと思う。 • 少子化が叫ばれる中、子どもたちの声をもっと大切にしてほしい。 • 子どもの自由を尊重してほしい。 • 虐待がないまち。

3　アンケート自由記述欄（概要）

教育



属性	主な意見
大人（一般）	• 区内の公立小学校の施設の老朽化が目立つ。 • 中高一貫校を設置するなど、学校改革をするべき。 • 杉並区のように、子育てや教育にもっと力を入れてほしい。最低限の環境はあるが、まちの売りにできるくらいやってほしい。
大人（保護者）	• 区から小学生に貸与されているタブレットの重量が重く、小学生が登下校で疲弊している。 • 小中学校の土曜授業を廃止してほしい。 • 子どもの学力向上に力を注いでほしい。塾で教えられることを公立学校にも取り入れて、子どもたち全員に対して平等にチャンスを与えてほしい。
小中学生	• 学校の宿題をタブレットにしてほしい。 • 学校の教科書はすべて廃止され、パソコンが教科書の代わりになってほしい。 • 学校の全体的な建物の改装、改良などを行い安全快適に過ごしやすい教育環境作りをしてほしい。

3　アンケート自由記述欄（概要）

高齢者



属性	主な意見
大人（一般）	・　高齢者だけでなくあらゆる年代にとって必要な支援を受けられるまちであってほしい。 ・　子どもと高齢者が触れ合えるまちになると良い。地域の高齢者の方が子どもを見守ってくれるようなまちが理想的。 ・　高齢者に優しいまちになってほしい。
大人 （保護者）	・　高齢者へのサービスが充実しているまち。 ・　高齢者と乳幼児子育て世代や、高齢者と若者が地域で交わる場ができたらいい。 ・　高齢者ばかりを優遇していて、子育て世代が生きづらい。
小中学生	・　高齢者でも安心して暮らせるまち。 ・　もっと高齢者へのバリアフリーを進めてほしい。

3　アンケート自由記述欄（概要）

福祉



属性	主な意見
大人（一般）	• バリアフリーが進んでおり、車椅子でどこにでも移動できるまち。 • 高齢者、障がい者、子ども、社会的に弱い立場にいる人に優しいまちにしていきたいし、なってほしい。
大人 （保護者）	• 発達障害への支援をもっと増やしてほしい。 • 学校において、特別学級と通常学級という枠を撤廃してほしい。 • 介護が必要になったときに安心して過ごせるようにしてほしい。 • 車いすの方でも移動しやすいようバリアフリー化を進めてほしい。
小中学生	• 障がい者が安心して暮らせるまち。 • 坂が多くて、高齢者や障がい者が移動しづらい。 • 障がい者への差別などがまだあるため、改善してほしい。

3　アンケート自由記述欄（概要）

健康・スポーツ



属性	主な意見
大人（一般）	・　みどりが多く、サッカーやバスケットボールができる運動広場を作ってほしい。 ・　街中に健康器具を充実させてほしい。
大人 （保護者）	・　公園でもスポーツできるところを増やしてほしい。 ・　誰もが気軽に利用できるスポーツ施設を増やしてほしい。 ・　健康寿命が延びるように、若者も高齢者も共にトレーニングを気軽にできるまちが理想である。
小中学生	・　スポーツができる場所を増やしてほしい。（例：プール/体育館/ボール遊びができる場所/バスケットボールができる場所/卓球ができる場所/野球のグラウンド/サッカーコート/テニスコート/スケボーパーク/陸上競技場/柔道専用エリア） ・　もっと医療に力を入れてほしい。

3　アンケート自由記述欄（概要）

人口



属性	主な意見
大人（一般）	・　大田区から少子化問題を改善し、子育てしやすくなるまちにしてほしい。 ・　大田区の良いところをアピールして、イメージの良い街にし、区外からの転入者も増え、産業が発達し、活力ある街にできるとよいと思う。
大人 （保護者）	・　少子化対策として、子育て世帯を優遇し、子どもを産みたくなるまちづくりを目指してほしい。 ・　子どもの数を増やさないことには、高齢化が進み、新たなイノベーションが生まれにくくなる。子どもに優しいまちは、高齢者や障がい者にも優しいまちである。
小中学生	・　少子高齢化の対策をちゃんととれるまち。 ・　住民が少し増え、祭りなどでもっと賑わうまち。

3　アンケート自由記述欄（概要）

自治体経営



属性	主な意見
大人（一般）	・　土日関係なく施設が空いているところが増えてほしい。 ・　区役所や出張所の土日開庁など、日中働いている人が使いやすい行政サービスがほしい。
大人 （保護者）	・　学校や公共施設で古い建物が多いため、建て直してほしい。 ・　大田区内均等に行政サービスを受けられるようにしてほしい。
小中学生	・　所得税、法人税など、収入にかけられる税を減らしてほしい。 ・　学校が全体的に古いので、きれいにしてほしい。

3　アンケート自由記述欄（概要）

その他



属性	主な意見
大人（一般）	・羽田空港はあるが、大田区を素通りしていく感じがするので、より魅力的なコンテンツを発信する必要があるのではないか。 ・羽田空港から近い利便性の良さを感じる。 ・ひとや環境に優しいまち、助け合える思いやりのあるまちであってほしい。
大人（保護者）	・大変アクセスのよい羽田空港は大きなメリットなので、今後のまちの活性化につなげてほしい。 ・個々を大切にできるまちづくりをしてほしい。
小中学生	・大田区は羽田空港がある点をもっと大きくアピールし、世界と繋がっていけるようにしたらよい。 ・緑が多くSDGsに貢献しているまち。 ・みんなが笑顔でいられるまち、平等なまち、戦争がなく平和なまち。